0025099004

0025099-004

334. 42-Ta165i

移植民ニ関スル調査書

台湾総督府熱帯産業調査会・編

台湾総督府殖産局農務課

1935

ADE

昭和十年九月

熱帶產業調查會調查書

移植民ニ關スル調查書

第四卷

臺灣總督府殖產局農務課

總目次

第一章　臺灣ノ移民
第一巻
第二章　各地ノ移植民
第一節　内地ノ植民
第二節　北海道ノ植民
第三節　樺太ノ植民
第四節　朝鮮ノ植民
第五節　南洋廳ノ植民
第二巻
第六節　満洲ノ移民
第七節　南洋ノ移民
第一項　比律賓
第二項　英領馬来
第三項　英領北ボルネオ
第四項　サラワク
第三巻
第五項　蘭領印度
第六項　暹羅
第七項　佛領印度支那
第八節　支那ノ移民
第四巻

334.42
Ta165i

國立國會圖書館藏書

33953

蘭領印度

目次

第二章　各地ノ移植民

第七節　南洋ノ移民

第五項　蘭領印度

第一、移住地ノ梗概　一丁
一、位置　一
二、面積　一
三、山系　一
四、河川　二

五、平野及高原　二
六、港湾　三
七、氣象　四
八、人口　六
九、住民、風俗　七
一〇、宗教　九
一一、衛生　一〇
一二、農業　一二
一三、牧畜業　六五
一四、林業　六七
一五、鑛業　七〇
一六、水産業　七四
一七、工業　七六
第二　内地人移民　七八
一、移民ノ沿革　七八

二、蘭領印度当局ノ日本人移民ニ對スル方針　八一
三、日本政府ノ移民奨勵方針　一〇五
四、移民企業者ノ移民ニ對スル保護　一〇五
五、邦人移民ノ現況　一〇六
六、移民事業ニ要シタル経費　一一五
七、将来ノ農業移民ノ餘地　一一五
第三、本島人移民　一二五
一、移民ノ沿革　一二五
二、蘭領印度政府ノ本島人移民ニ對スル方針　一二五
三、日本政府ノ移民奨勵方針　一二五
四、移民企業者ノ移民ニ對スル保護　一二六
五、移民ノ現況　一二六
六、移民事業ニ要シタル経費　一二七
七、将来ノ農業移民ノ餘地　一二七

第四　外国人移民　一三〇
一、移民ノ沿革　一三〇
二、和蘭政府ノ外国人移民ニ對スル方針　一三三
三、外国政府ノ移民奨勵ノ方針　一三四
四、移民企業者ノ移民ニ對スル保護　一三四
五、移民ノ現況　一三四
六、移民事業ニ要シタル経費　一四五
七、将来ノ農業移民ノ餘地　一四五

第一 移住地ノ概況

一、位置

蘭領印度ハ亜細亜大陸ノ南東、北緯六度ヨリ南緯一一度東經九五度ヨリ一四一度ノ間ニ散在スル和蘭領ニ屬スル島嶼

二、面積

總面積ハ一八九九、七五一平方粁アリ本

国ノ五八倍ニ該當ス

此ヲ地方別ニ分テハ左表ノ如シ

地方別	面積
爪哇及マヅラ	一三二、二七四一平方粁
スマトラ島合計	四五四、九一九一平方粁
蘭領ボルネオ合計	五三三、八三八〇平方粁
セレベス島合計	一八九、五三五八平方粁

三、山系

ボルネオ、及ニユーギニアノ両島ヲ除ケバ總テ火山系ナリ．山脈ハ地方的ニ極メテ複雑ナリ．山岳ハ全島ヲ通ジ標高二、〇〇〇米以上ノモノ八一座アリ其ノ中三〇〇〇米以上ノモノ二六座アリ。爪哇、スマトラニハ火山多ク両島ヲ通ジ活火山（爪哇（二三）スマトラ（一二）｝三五山座ヲ有ス

四、河川

爪哇、スマトラ島、ボルネオ島及セレベス島ハ其ノ面積廣汎ナルニ依リ河川ノ大ナルモノアリ即チ全島ヲ通ジ主要河川ト稱セラルヽモノ爪哇ニ三スマトラ島ニ五ボルネオ島ニ三セレベス島ニ一ニユギニア島ニ一合計十四河川アリ。

五、平野及高原

山脈ガ島ノ外側ニ在ル関係上平野ハ殆ンド島ノ内側ニ存在ス全島ヲ通ジ平野及高原ト稱セラルヽモノ左ノ如シ

平野

東部爪哇平野
中部爪哇平野
ルンソロ平野
バスルアン平野
プロボツゴ平野
西部爪哇平野

高原

西部爪哇ノバンドン高原
スカブミ高原
チヤンジヨール高原
ガルー高原
中部爪哇マゲラン高原
アムバラワ盆地

スマトラ北東海岸地方平野
ボルネオ南部沿岸地方平野

東部爪哇マラン高原
スマトラノパダン高原
セレベス島ミナハサ高原
モンゴンドウ高原
タゲゴン高原
トバ高地
中部セレベス高原

六　港湾

海岸線長キヲ以テ良港多ク海運便ナリ

主ナル港湾ハ左ノ如シ

港名	所在島
Batavia.	爪哇島
Soerabaja	同
Semarang	同
Padang.	スマトラ島
Belawan	同
Pontianak	ボルネオ島
Bandjermasin	同
Makassar	セレベス島
Menado	同

七　気象

(一)　氣温　四季ノ変化少ク平均攝氏二四度乃至二七度ナリ又一日ノ氣温ノ平均較差ハ乾燥期ニ於テ大―七度雨期ニ於テ四―五度内外ナリ

(二)　雨量　概括的ニ乾燥期ト雨期トニ分ツコトヲ得本地方ハ多数ノ島嶼ガ複雑ニ散在セル関係上地方的ニハ必ズシモ一様ナラズ、スマトラ北部ハ定期風ノ為降雨ハ八月ニ多ク赤道直下ニアリテハ一年ヲ通シ常ニ降雨ヲ見支那海、爪哇海及スンダ島ハ十二月一月及二月ノ三箇月ヲ降雨期トス、又爪哇西部及スマトラ島南部ニ於テハ爪哇東部ノ乾燥期中部テ雨多ク、モロツカ群島ハ一月ノ東北風及八月ノ西南風ノ頃

雨量多シ

蘭領印度主要地ニ於ケル氣象表

（觀測開始以来ノ年平均
出所"一九三一年統計年報"）

地名	平均氣壓（粍）	平均日照割合％	平均氣温（攝氏）最高	平均氣温（攝氏）最低	濕度（％）最高	濕度（％）最低
Batavia	七五八、八	六六	三〇、〇	二三、三	九四	六四
Bandoeng	六九七、八	六二	二七、五	一八、二	九六	五七
Tjipiroean		五三	二一、一	一三、五	九七	六八
Karangandjar		六二	三〇、一	二三、六	九六	六九
Soerabaja		八〇	三〇、四	二三、八	九六	五九
Tosari	六二三、一	三九	一八、八	一四、一	九七	五八
Medan	七五五、三	五七	三〇、五	二一、七	九七	六三
Seriboedolok		五〇	二一、七	一四、六	九八	六八
Padang	七五九、三	六七	三〇、四	二三、一	九三	六二
Fort de Kock		五七	二五、六	一七、六	九九	六三
Pontianak	七五九、一	五九	三〇、七	二三、三	九七	六一
Balikpapan	七五八、七		二九、一	二三、九	九七	七一
Manado	七五八、四	六七	三〇、一	二二、五	九五	六八
Makassar		七二	二八、七	二一、三		
Amboina	七五八、九	五三	二九、三	二三、二	九六	六七
Koepang	七五九、一	七七	三一、三	二二、二	九四	五六

一、人口

一九三〇年十月七日ノ国勢調査ニ依レバ六〇、七三一、〇二五人ニシテ此レヲ一九

二〇年ノ人口ニ比スレバ一一、三八〇、一九一人ノ増加トナリ即チ二三、％一ノ増加割合ヲ示ス此ノ内爪哇ノ人口ハ四一、七一九、五二四人デ全人口ノ六八、七％ヲ占メ一平方粁當三一四、五ノ密度ヲ示ス一九三〇年ノ國勢調査ニヨル人口ヲ大別スレバ次ノ如シ

土人、欧人、支那人、其他人口表

（出所＝一九三〇年國勢調査暫定数字報告書）

種別	爪哇及マヅラ	外領	合計	全人口ニ對スル割合
土人	四〇、八九〇、二四四	一八、二五三、五三一	五九、一四三、七七五	九七％四
欧人	一九三、六一八	四八、七五四	二四二、三七二	〇、四
支那人	五八二、三六〇	六五〇、四九六	一、二三三、八五六	二、〇
其他東洋外國人	一五三、三〇二	五八、七二〇	一一一、〇二二	〇、二
計	四一、七一九、五二四	一九、〇一一、五〇二	六〇、七三一、〇二五	一〇〇、〇

註日本人ハ欧人中ニ含マル

地方別人口ノ密度ヲ観ルニ次ノ如シ

（出所＝同前表）

地方別	人口			平方粁當	面積粁
	男	女	計		

爪哇及マヅラ	二〇、四二八、五三三人	二一、二九〇、五九二人	四一、七一九、五二四人	三一四、五人	一三二、二七四
スマトラ	四、三六三、八九二	三、九七四、六七八	八、三三八、五七〇	一七、五	四七一、五五一
ボルネオ	一、一一五、七六三	一、〇七八、七七〇	二、一九四、五三三	四、一	五三三、八三八
セレベス	二、〇九二、一九六	二、一四四、三九〇	四、二三六、五八六	二二、三	一八九、五三六
モルケン	三九〇、二三一	三六七、四四九	八九三、〇三〇	一、八	四九八、四五五
バリ及ロンボーク	八八八、三五〇	九一三、七九六	一、八〇二、一四六	一七〇、九	六三、五五一
チモール	八三一、四六一	八二五、一七五	一、六五六、六三六	二六、一	一〇、五四六
計	三〇、〇一〇、八二五	三〇、五〇四、八五〇	六〇、七三一、〇二五	三六、〇	一、八九九、七五一

九、住民風俗

蘭領印度ニ在住スル人種ハ土人、支那人、亜剌比亜人、欧州人、日本人及其ノ他ノ亜細亜人ノ六種ニ大別スルコトヲ得其ノ中土人ノ分布区域ヲ示セハ次ノ如シ

（出所ハ南洋年鑑）

種族名	居住地域	特質
アチエー族	スマトラ島北端アチエー州	一般ニ剽悍デ竊盗掠奪及虐殺ヲ好ム
ガヨ族	同島同州中部山中	米作ヲ生業トシ比較的温順デアル
アラス族	右同	右同
バタク族	スマトラ島タパヌリ州及同島東海岸州ノ山地	米作ヲ生業トシ爪哇移民ト接觸シテ開化シテヰル貴族平民奴隷ノ三階

		紋アリ
ミンナカベツ馬来族	スマトラ西海岸州	生業ハ農商、牧畜、漁業デ又金銀細工作業ニ長ズ
南部スマトラ馬来族	スマトラ島パレムバン、ベンクーレン、ヂヤムビ、ラムボン諸州	妖術ヲ用ヒ迷信深ク男女共倭少ナリ
ダヤク族	ボルネオ島奥地一帯	迷信深ク往時首狩ヲナシタルモ今ハ之ヲ行ハズ河畔ニ住ム種族デアル
マカフサル族	セレベス島ノ南半島ノ南部	筋骨逞シク情義ヲ重ジ尚武ノ気風アリ 商人トシテ現ニ勢力アリ
ブギス族	セレベス島ノ西部及ボルネオ島東部沿岸	右同
トラヂヤ族	セレベス島中部	往時首狩ノ風盛ナリシモ今ハナシ現ニ基督教ヲ信ジ文化ノ程度最モ高キ種族
ミナハサ族	セレベス島北部	右同
アムボン族	アンボイナ島及其ノ近海諸島	文化ノ程度低ク野蛮的デアル
パプア族	北部ニウギニア	首狩ノ蛮風アリ人肉ヲ食ス文化ハ最モ遅レテヰル
カヤカヤ族	南部ニウギニア	大高ク筋骨逞シ性惨忍デ首狩ヲ好ム
スンダ族	爪哇ノ西部	開化セル種族デヨク官命ヲ守ル
爪哇族	爪哇ノ中部及東部	最モ文化ノ程度高キ種族デアル欧人ト交ル所ナン
マヅラ族	マヅラ島及東部爪哇	スンダ族ト同様デアル
バリ族	バリロムボリノ諸島	右同

一〇、宗教

南領印度諸島中「セレベス」及「モルナン」群

島ニハ土人基督教信者ナルモノ比較的多ク殊ニ「ミナハサ」地方及「サンギ」群島ノ土人全部ハ「プロテスタント」及「ローマンカトリック」教徒ナリ又「スマトラ」ノ「トバ」地方ニモ土人ノ「プロテスタント」多シ、爪哇「スマトラ」ノ二島ニ於テハ住民ノ大部分ハ回教徒ニシテ「ベリ」及「ロムボク」ノ二島ハ印度佛教徒其ノ大半ヲ占ム各島ノ未開蛮族ハ概ネ「アニミスト」ナリ。土人ノ約九割ハ回教徒ナルモ基督教徒モ相当アリ一九三〇年ノ統計ニヨレバ同年ノ土人受洗者ハ「プロテスタント」約三万人「ローマンカトリック」約五千人ナリ、欧人ハ總テ基督教徒ナリ、其ノ内約十一万人ハ「プロテスタント」ニシテ残約七

ラ人ハ「ローマンカトリック」教徒ナリ、支那人ノ多クハ儒教徒又ハ多神教徒トス、

二、衛生

蘭領印度ニ於テ最モ普通ニ発生スル疫病ハ大要左ノ如キモノナリ

(一) マラリヤ、全島到ル處ニ発生ス特ニ濕地ニ最モ多シ之ニ對シ政府ハマラリヤ防遏委員會ヲ設ケ撲滅ニ努メツヽアリ、

(二) コレラ 土人ハ生水ヲ飲用スル習慣アルニ依リ一度本病流行セバ容易ニ防止スルコト能ハザルモノアリ、

(三) 脚氣 バンカ島及ビビリトン島ニ最モ多ク全般的ニモ患者相當アリ一種ノ風土病ナリ。

(四) 赤痢　土人ノ生水飲用ノ結果相當流行ス

(五) アメーバ赤痢　全島内ニ亘ッテ発生シ東部プリンアン地方最モ多シ

(六) 天然痘　西部爪哇ニ多シ

(七) チブス　全島内ニ発生ス特ニ西部爪哇地方ニ最モ多シ

(八) 癩病　全島内ニ於ケル名物ノ一種ニシテ政府ハ多額ノ資金ヲ以テ之ガ撲滅ニ努メツヽアリ。

(九) ペスト　年中流行ス特ニ流行ノ盛ナル地方ハ中部爪哇ナリ、

患者取扱数及死亡数ヲ示セバ左ノ如シ

（出所〃一九三〇年統計年鑑）

年次	取扱患者数	死亡数	死亡率	摘要
一九三〇年	一八七、二八一	九、二六六	四、九	一六七ノ病院ニ就テ
一九三九年	一三六、九八八	六、三四一	四、六	一四八ノ病院ニ就テ

註〃病院ニ於ケル衛生状態

一二　農業

氣候ト地味ニ恵マレタル関係上農産物ノ種類ハ世界ニ冠タルモノナリ即チ農産物ハ蘭領印度ノ経済的発展ノ根幹ヲナス蘭領印度ノ農業ハ其ノ生産行程ヨリシテ欧人農業ト土人農業トニ大別スルコトヲ得前者ハ主トシテ領外輸出後者ハ土人食料ノ供給ヲ目的トス近時土人中ニモ護謨栽培ヲ試ミル者多ク又椰子モ到ル處ニ栽培サル、然レドモ米、玉蜀黍、大豆、甘藷タピオカ、落花生等ハ土人ノ常食トシテ重大ナル意義ヲ有ス、従ッテ政府ハ土人ノ耕地ガ

欧人ノ農園ノ開拓ニ依リ縮少セラレザル様注意シ爪哇ニ於テハ土人ノ米作ヲ保護シツヽアル状態ニシテ甘蔗園ノ擴張及新設等ニ對シテハ法規ヲ設ケ或程度ノ制限ヲナシツヽアリ又一方土人ノ農業経営方法ノ改善等ニツキ努力ヲ拂ヒタル為メ近年着シク増産スルニ至レリ。

今農作物植付並生産面積及生産高ヲ示セバ次表ノ如シ。

一九三〇年ニ於ケル主要農作物植付並
生産面積及生産高

（單位面積ハヘクタール
出所ハ台湾総督府調査課）

作物別	農園数			爪哇		外領		計	
	爪哇	外領	計	植付面積	生産面積	植付面積	生産面積	植付面積	生産面積
蔗苗	二一四	—	二一四	一一、九二八	一一、九二八	—	—	一一、九二八	一一、九二八
製糖用甘蔗	一九五	—	一九五	一九八、〇〇〇	一九八、〇〇〇	—	—	一九八、〇〇〇	一九八、〇〇〇

ヘヴィア護謨	五五八	五五四	一、一一二	二二八、九二八	一五五、七五四	三四四、〇九一	二一三、四九六	五七三、〇一四	三六九、二五五
フィカス護謨	九	五	一四	二八三	二五八	三四一	三三九	六二四	五九七
ガタパーチャ	一	二	三	一、一三五	一、一三五	一六五	一	一、三〇〇	一、一三五
珈琲	三〇一	一三〇	四三一	九七、一一〇	八〇、九七五	三三、二二七	一九、五五四	一三〇、三三七	一〇〇、五二九
茶	二八〇	四三	三二三	九八、五八九	八五、七七七	二八、四〇七	一八、三七五	一三六、九九六	一〇四、〇五二
煙草	四五	七二	一一七	三二、四九一	三二、四九一	二〇、二〇八	二〇、二〇八	五三、六九九	五三、六九九
規那	一一二	一三	一二五	一六、一四一	一三、五三三	二、九四九	二、〇三五	一九、〇九〇	一五、五六八
カカオ	二〇	一	二一	五、三五八	三、九二三	四	四	五、三六二	三、九二七
ココ椰子	一四〇	五五八	六九八	七、七一八	四、七八二	四三、九一四	二三、八二九	五一、六三二	二八、六一一
油椰子	四	四四	四八	七〇七	一四四	六〇、五二八	二九、八七三	六一、二三五	三〇、〇一七
カポック	一一六	二四	一四〇	一七、一八一	七、四〇三	四八三	一一	一七、六六四	七、四一四
セサル麻	一四	六	二〇	八、四六三	六、九九七	四、〇八三	二、三六六	一三、五四六	九、三六三

カンタラ麻	一二	一	一三	六、八〇二	四、八五一	六	六	六、八〇八	四、八五七
ロセル麻	一	—	一	二五	九	—	—	二五	九
マニラ麻	—	一	一	—	—	五一七	五一七	五一七	一、五一七
コカ葉	—	—	六五	—	—	—	—	九一九	八七五
肉荳蔲	一五	一一	二六	一、二二八	八二八	九七〇	八九七	二、一九八	一、七二五
胡椒	二〇	八	二八	一、三九八	九三七	三二〇	二三一	一、七一八	一、一五八
カフサノヴ	八	—	八	三、三五一	三、三五一	—	—	三、三五一	三、三五一
芳香性油	九〇	九	九九	一〇、五三五	八、七九〇	三五四	一四二	一〇、八七九	八、九三二
ガムビル	—	一五	一五	—	—	一、九四一	一、六七四	一、九四一	一、六七四
計	一、二二〇	一、二四七	二、四六七	六九三、六〇四	……	五二九、七二五	—	一、二二三、三二九	—

尚最近五箇年間ノ主要農作物植付面積

ヲ比較スレバ次ノ如シ

（單位面積ハヘクタール）

（出所ハ前表ニ同ジ）

年次	農園数			爪哇	外領	計
	爪哇	外領	計	植付面積	植付面積	植付面積
一九三〇年	一、三三〇	一三四七	二、四六七	六九三、六〇四	五二九、七二五	一、二二三、三二九
一九二九年	一、二四四	一、一九九	二四四三	六八〇、四六四	四八五、〇六一	一、一六五、五二五
一九二八年	一、二一七	一、〇二一	二、二三八	六七七、五五二	四六一、七六七	一、一三九、三一九
一九二七年	一、二九〇	九六一	二、二五一	六五六、九九九	四一一、〇三〇	一、〇六八、〇三〇
一九二六年	一、二三五	九一八	二、一五三	六一六、四七三	三七七、〇五五	九九三、五二八

蘭領印度ノ農業ノ世界的地位

蘭領印度ノ農産物ガ世界市場ヲ占ムル状態ハ次表ノ如ク卓絶セルヲ識ル

一九二九年ニ於ケル主要農産物輸出量

對世界輸出量比較表

（單位ハ米噸　出所ハ前表ト同ジ）

農産物別	世界輸出總高	蘭印輸出總高	世界輸出ニ對スル割合%
護謨	八七九、六四七	二六二、八七三	三〇%
砂糖	二七、六〇三、〇〇〇	二、八七〇、九七九	一〇〃
珈琲	一、三七六、〇〇〇	八〇、七〇〇	六〃
茶	四三六、七三六	七三、四五〇	一七〃

規那	一、三六九一	一、一八八四	九四%
古々椰子（コプラ共ニ）	一、七一六、〇三九	五〇八、七九五	三〇〃
油椰子	七八六、七七〇	四二七一四	五〃
纖維類	二六五、三四〇	五八、六八六	二二〃
カ、オ	五三九、四六五	一、二九一	〇二〃
コカ葉	？	五九九	？
カポック	二三、三〇八	一七四二九	七五%
胡椒	四〇七二八	二八一九一	六九〃

蘭領印度ニ於ケル欧人及土人農産物輸出状況ヲ示セバ次表ノ如シ

欧人及土人農産物輸出額

（單位＝百万盾）

（出所＝一九三〇年輸出農業物産統計）

爪哇及マヅラ　其ノ一

年次	欧人農産物 價額	欧人農産物 總額ニ對スル%	土人農産物 價額	土人農産物 總額ニ對スル%	計
一九二六年	五四一	八七、七	七六	一二、三	六一七
一九二七年	六〇四	八八、二	八一	一一、八	六八五
一九二八年	五八三	八一、二	一三五	一八、八	七一八
一九二九年	四八四	八二、三	一〇四	一七、七	五八八
一九三〇年	四〇四	八五、二	七〇	一四、八	四七四

其ノ二

年次	外領 欧人農産物 價額	外領 欧人農産物 總額ニ對スル%	外領 土人農産物 價額	外領 土人農産物 總額ニ對スル%	計

一九二六年	二七六	四六.〇%	三二四	五四.〇%	六〇〇
一九二七年	二八四	四六.八	三二三	五三.二	六〇七
一九二八年	二二五	四三.四	二九四	五六.八	五一九
一九二九年	二〇四	四一.二	二九一	五八.八	四九六
一九三〇年	一九六	五〇.九	一八九	四九.一	三八五

其ノ三

年次	蘭領印度合計				
	欧人農産物		土人農産物		計
	價額	總額ニ對スル%	價額	總額ニ對スル%	
一九二六年	八一七	六七.一%	四〇〇	三二.九%	一、二一七
一九二七年	八八八	六八.七	四〇四	三一.三	一、二九二
一九二八年	八〇八	六五.三	四二九	三四.七	一、二三七
一九二九年	六八八	六三.五	三九五	三六.五	一、〇八三
一九三〇年	六〇〇	六九.八	二五九	三〇.二	八五九

糖業

蘭領印度ニ於ケル甘蔗ノ栽培ハ爪哇ニ限ラル、爪哇ノ糖業ハ蘭領印度ニ於ケル最モ重要ナル産業ニシテ蘭領印度ノ経済界ノ鍵ヲ握レルモノナリトス近来外領地方ニ於テモ護謨其ノ他ノ栽培業ガ発展シ来リタルモ未ダ糖業ノ右ニ出ヅル産業ナシトス、爪哇ノ糖業中心地ハ中部及東

部地方ナリ。

次ニ政府ノ糖業政策並ニ関係法規ニ付キテ見ルニ爪哇ノ糖業ハ三ツノ法規ニ依リ支配拘束サル、即チ(一)工場法(二)借地法(三)「内務部長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ製糖工場ハ甘蔗ヲ買入レ製糖スルヲ得ズ」ノ三法規ナリ。

工場法ノ趣旨ハ製糖工場ノ新設、擴張ニ依リ土人ノ受ケタル損害ヲ保護スルニアリ即チ製糖工場ノ新設又ハ擴張ヲナサントスル者ハ豫メ内務部長官ノ許可ヲ要スコト、ナレリ。

借地法ハ糖業者ノ最モ苦痛ヲ感ズルモノニシテ土人ノ所有地ヲ借入スルニ二十

一箇年ノ期間アルモ其ノ借入契約ノ條項ガ当業者ニ甚ダ重荷ナリトス、即チ借地料ハ少クトモ五箇年内ニ期間トシテ總督ノ定メタル最低料ヲ下ルコトヲ得ズ右最低料金ハ土人ガ米作ヲナシタル場合ノ収穫ヲ基礎トシテ算定スルモノトス。

次ニ製糖工場ニ於テ土人ノ甘蔗ヲ買入レントスル場合ハ内務部長官ノ許可ヲ要スルノ法規アリ、從來ニ於テハ自作甘蔗ヲ主トシテ土人甘蔗ハ其ノ不足ヲ補フニ止マレル工場アリシガ一九二三年ニ至リ製糖工場ハ土人甘蔗ヲ勝手ニ買入ルヽコトヲ得ズトノ法令ヲ発布セリ、本禁止令ノ原因ハ工場ガ土人ニ貸付クル前貸金ニ弊害

アリト謂フニアリ。

欧人製糖工場数及甘蔗収穫面積ヲ示セバ次表ノ如シ。

欧人製糖工場数及甘蔗収穫面積表

年次	操業工場数	収穫面積		
		農園所有面積	土人ヨリノ借地	計
一九二六年	一七八	三六、四七四（ヘクタル）	一三七、五二七（ヘクタル）	一七四、〇〇一（ヘクタル）
一九二七年	一七六	三六、〇八二	一四三、〇三八	一七九、一二〇
一九二八年	一七八	三九、九九九	一四九、四七二	一八九、四七一
一九二九年	一七九	三九、一〇六	一五二、二六〇	一九一、三六六
一九三〇年	一七九	四〇、四二〇	一五三、二七二	一九三、六九二

（出所ハ一九三〇年輸出農業物産統計）

次ニ世界産業高ニ對スル爪哇糖ノ比率ヲ観ルニ次ノ如シ

世界産糖高及爪哇産糖高連年比較表

（出所ハ前表ト同ジ）

年次	世界産糖高				爪哇産糖高（米噸）	爪哇糖ノ比率	
	甘蔗糖（米噸）	甜菜糖（米噸）	合計（米噸）	甘蔗糖ノ%		甘蔗糖ニ對スル%	合計ニ對スル%
一九二五－二六年	一六、三三六、〇〇〇	八、四六〇、〇〇〇	二四、七九六、〇〇〇	六五、八	一、九四一、五六四	一一、九	七、八
一九二六－二七年	一五、九〇〇、〇〇〇	七、六九〇、〇〇〇	二三、五九〇、〇〇〇	六七、四	二、三五一、三三二	一四、八	一〇、〇

一九二七―二八年	一六、五四九、〇〇〇 米噸	九、一〇五、〇〇〇 米噸	二五、六五四、〇〇〇 米噸	六四、五	二、九二三、五五〇 米噸	一七、七	一、一四
一九二八―二九年	一八、一一六、〇〇〇	九、四八七、〇〇〇	二七、六〇三、〇〇〇	六五、六	二、八七〇、九七九	一五、八	一、〇四
一九二九―三〇年	一七、九九三、〇〇〇	九、三二一、〇〇〇	二七、三一四、〇〇〇	六五、九	二、九一五、八六六	一七、二	一、〇七
一九三〇―三一年	一六、八五四、〇〇〇	一一、七二四、〇〇〇	二八、五七八、〇〇〇	五九、〇	二、九四五、五二八	一七、五	一、〇三

護謨

護謨ノ栽培ハ蘭領印度栽培企業中最後ニ発達シタルモノニシテ最近糖業ニ追迫セントスルノ盛況ナリ。殊ニパラ護謨ガ栽培サルヽニ到レリ本種護謨ハ在来護謨栽培ニ比シ経済的ナリト認メラレ現在栽培セラルヽ護謨ノ全部ヲ占ムルニ至レリ、世界ニ於ケル自動車ノ激増ニ伴ヒ益々栽培面積ヲ増加スルニ至レリ。

本地方ニ於ケル主要護謨栽培地ハ爪哇ノ西部及東部山地「スマトラ」島「アチエー」州及「スマトラ」東海岸州ノ東海岸ヨリ「オー」州

ニ至ル中央山脈ノ東方傾斜地及平地、「タパヌリ」及「スマトラ」西海岸ノ山地並ニ「パレムバン」、「ランポン」西州ニ於ケル中央山脈ノ東面傾斜地「ボルネオ」ノ「ポンチアナ」及「バンゼヤルマシン」ヲ中心トスル地域ナリ就中「スマトラ」東海岸州ハ最モ大規模且組織的ニ行ハレツヽアリ。

蘭領印度ニ於テハ和蘭人ノミナラズ各国人ノ護謨栽培業者アリ即チ次表ノ如シ

各国人護謨生産高表

（出所＝倫敦護謨栽培協會）

年次	英本国人	英領土人	和蘭人	其他ノ欧人	米国人	亜細亜人	合計
一九二九年	五一、〇〇〇米噸	四〇〇〇米噸	五七、〇〇〇米噸	一七、〇〇〇米噸	一九、〇〇〇米噸	三、〇〇〇米噸	一五一、〇〇〇米噸
一九三〇年	五〇、〇〇〇	四〇〇〇	五六、〇〇〇	一七、〇〇〇	二二、〇〇〇	三、〇〇〇	一五二、〇〇〇

次ニ蘭領印度ニ於ケル各国護謨投資額

ハ次表ノ如シ

一九二九年末各国護謨投資額

国別	投資額（盾）
和蘭	二九二、三六四、〇〇〇
英国	一九二、三七一、〇〇〇
佛国白耳義	六六、〇二二、〇〇〇
米国	五三、〇三五、〇〇〇
日本	一二、八七二、〇〇〇
独逸	六、〇六五、〇〇〇
伊太利瑞西其ノ他	三七、四九三、〇〇〇
計	六六〇、二二二、〇〇〇

註＝投資額中三五一、〇〇〇、〇〇〇盾ハ「スマトラ」東海岸州ニ又二六九、八〇八、〇〇〇盾ハ爪哇ニ投資サレタルモノナリ。

欧人護謨園数、植付生産面積及生産高表

（出所＝一九三〇年輸出農業物産統計）

地方別	爪哇及マヅラ			
年次	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
農園数 統計	五〇七（一〇）	五三五（二〇）	五四三（一一）	五三八（一一）
農園数 生産園	四六六	四六〇	四六二	四六二
農園総面積（ヘクタール）	六四八、一六四	六五〇、〇四五	六七一、七三九	六七六、九〇八
植付面積（ヘクタール）	一九四、七二〇	二一〇、六四二	二二三、七八一	二二四、八四一
生産面積（ヘクタール）	一四〇、一一九	一四五、〇七八	一四八、九八八	一五四、一〇二
農園生産高 農園生産高	五一、七九三、四五七瓩	五四、九五〇、八四三	五八、九九五、四七〇	六六、四〇〇、〇〇三
農園生産高 買上高	一〇三、六三九瓩	一二五、〇二一	一〇七、一九七	一一二、五五四
農園生産高 合計	五一、八九七、〇九六瓩	五五、〇七五、八六四	五九、一〇二、六六七	六六、五一二、五五七

	一九三〇年	五四七（一〇）	四七八	六八六、一九四	三二八、九二三	一五五、七五四	六六、五九一、一〇八	八六、五二二	六六、六七七、六三〇
外領	一九二六年	四一五（一一）	三七二	八四四、七二四	三五一、一六七	一八七、〇九六	七一、〇三七、二九〇	三四三、五七九	七一、三八〇、八六九
	一九二七年	四四四（一一）	三七四	九一四、九七六	二七四、八三一	一九四、二四一	七五、三三六、〇一五	四九三、一四六	七五、八二九、一六一
	一九二八年	四三六（一一）	三七七	九七三、九一六	三〇二、八六五	一九九、五二四	八一、八二五、五七七	｜	八一、八二五、五七七
	一九二九年	五四六（一一）	四三四	一、〇〇〇、二五二	三二三、七一五	二〇六、三七一	八七、一三六、七九一	五〇五、五九一	八七、六四二、三八二
	一九三〇年	五五三（一一）	四四六	一、〇一五、三〇四	三四四、〇九一	二一三、四九六	八六、四三九、三八五	四二三、三〇九	八六、八五三、六九四

註リ右表数字ハ「ヘヴィア」護謨園トス

土人護謨栽培面積表

（出所リ蘭領印度ニ於ケル土人護謨栽培）

地方別	採集面積	未採集面積	合計
西部ボルネオ	五三、〇〇〇英反	一五九、〇〇〇英反	二一二、〇〇〇英反
南東部ボルネオ	五〇、〇〇〇	一〇八、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
パレムバン	五三、〇〇〇	二六五、〇〇〇	三一八、〇〇〇
ヂャンビ	七〇、〇〇〇	一四〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇
計	二二六、〇〇〇	六六四、〇〇〇	八九〇、〇〇〇

土人護謨生産高見積表

（出所リ前表ト同ジ）

年次	西部ボルネオ	南東部ボルネオ	バレムバン	ゲャンビ	合計
一九二九年	一九、五〇〇米噸	一六、五〇〇米噸	一八、五〇〇米噸	二一、五〇〇米噸	七六、〇〇〇米噸
一九三〇年	二四、五〇〇	一九、〇〇〇	二八、五〇〇	二六、〇〇〇	九七、〇〇〇
一九三一年	三二、五〇〇	二四、〇〇〇	四三、五〇〇	三二、五〇〇	一三二、五〇〇
一九三二年	四二、〇〇〇	二九、五〇〇	六一、〇〇〇	四〇、五〇〇	一七三、〇〇〇

一九三三年
五一、〇〇〇 米噸
三四、五〇〇 米噸
七七、〇〇〇 米噸
四七、五〇〇 米噸
三二〇、〇〇〇 米噸

規那蘭領東印度ハ（主トシテ爪哇）ハ現在世界ニ於ケル規那産額ノ約九一%ヲ産出ス。

規那皮ノ收穫ハ現在ニ於テハ樹全体ヲ伐倒シ工場用皮ハ幹及枝ヲ木槌デ叩キ取ル又根ハ幹及枝皮ヲ合計セシ数量ノ三分ノ一乃至二分ノ一ヲ生産ス、根ニアリテハ骨カ又ハ角製ノ小刀ヲ以テ剝グ。現在採集サル、規那皮ハ「シンコーナレッヂエリアナ」種及「レンコーナサックシルブラ」ノ二種ニシテ前者ハ工場用皮ヲ後者ハ藥剤用皮ヲ産スルモノナリ、工場用皮ハ規尼涅ノ製造用藥剤用皮ハ丁幾剤、越幾斯「ワイン」煎汁

等ノ調剤用トシテ用ヒラル。

規尼涅ノ製造ハ現在世界ヲ通ジテ十七工場アリ即チ次ノ如シ

佛国　四　獨逸　三　和蘭　三　蘭領印度　一

英国　一　瑞西　一　日本　二　米国　二

欧人規那園数植付並生産面積及生産高

地方別	年次	農園数	生産園数	農園総面積（ヘクタール）	植付面積（ヘクタール）	生産面積（ヘクタール）	規那皮生産高（ヘクタール）
爪哇及マヅラ	一九二六年	一二五	一一七	一七七、九五九	一七、一三七	一三、三二六	九三一七五八三
	一九二七年	一二六	一一三	一七四、二五〇	一七、三七〇	一二、九九七	八、六五三、〇一八
	一九二八年	一一八	一〇五	一六四、七九二	一七、二六〇	一三、四〇五	八、三二〇、六九八
	一九二九年	一一七	一〇五	一六三、五五八	一六、七〇五	一三、六二六	一〇、一八四、五三八
	一九三〇年	一一二	九九	一五九、〇六〇	一六、一四一	一三、五三三	九、八三三、七七二
外領	一九二六年	一二	一〇	二三、一三八	三、一八一	一、六八七	一、三二五、七六七
	一九二七年	一一	一〇	二〇、六四八	三、二八六	一、五九七	一、三九三、九二四
	一九二八年	一二	一〇	二三、二二五	三、四九二	一、六三七	一、五九八、九三四
	一九二九年	一二	一〇	二三、二四五	三、六七四	一、七二一	一、六九九、三五八
	一九三〇年	一三	一〇	二五、三三八	二、九四九	二、〇三五	二、〇四四、七八九

（出所ハ前表ト同ジ）

茶一八二八年ヨリ一八三三年マデノ間蘭人技師ヤコブソン支那ヨリ各種茶樹及種子ヲ輸入シ之ヲ栽培セシニ始マル、元来茶ハ爪哇ノ在来作物ニ非ズ爾来強制栽培制度ヲ実施シタルモ甘蔗、珈琲ノ如キ発展ヲ示サズ成績不良ナリキ、是ヨリ先キ一八三四年英領印度ニ於テハ「アッサム」茶ガ発見サレ、欧人ノ嗜好ニ適シ輸出量多シ、之ガ爪哇ニ移植サレタルハ一八七八年ノ事ニシテ其ノ後幾多ノ茶栽培会社生レ出ズルニ至レリ、現在爪哇及「スマトラ」ニ栽培セラル、茶ハ殆ンド「アッサム」茶ナリトス、蘭印ノ茶栽培適地ハ爪哇ニ於テハ「プリアンガン」外領ニ於テハ「スマトラ」東海岸州ナリ、

今植付面積及生産高ヲ示セハ次表ノ如シ

茶植付面積及生産高

（出所ハ一九三〇年輸出農業物産統計）

年次	植付面積		乾燥茶生産高		
	農園植付面積（ヘクタール）	土人植付面積（小作ヲ含ミ）（ヘクタール）	農園生産高（米噸）	土人生産高（米噸）	合計（米噸）
一九二六年	一〇三、三八二	二八、六二八	四八、三〇四	一四、六一六	六二、九二〇
一九二七年	一〇九、〇二一	三〇、五六七	五二、三八七	一二、六九一	六五、〇七八
一九二八年	一一五、二三七	三四、八四四	五七、二五四	一五、六〇八	七二、八六二
一九二九年	一二〇、四四二	三七、〇一〇	五九、八二五	一五、七五八	七五、五八三
一九三〇年	一二六、九九六	四〇、九八〇	五七、六二八	一四、三六三	七一、九九一

欧人茶園数、植付並面積及生産高表

（出所ハ前表ト同ジ、其ノ一）

地方	年次	農園数		農園總面積（ヘクタール）
		合計	生産中	
爪哇及マヅラ	一九二六年	二六〇（三）	二五五（三）	四六三、八五八
	一九二七年	二六九（三）	二五四（三）	三九、九九一
	一九二八年	二八一（四）	二六一（四）	四〇三、四六三
	一九二九年	二七五（四）	二五九（四）	三九一、三九三
	一九三〇年	二八〇（三）	二六三（三）	四〇六、八七一
外領	一九二六年	二五	二〇	六二、三一六
	一九二七年	二六	二〇	六七、一四〇
	一九二八年	三九	二四	一一六、九三八
	一九二九年	四一	二五	一二〇、四五六
	一九三〇年	四三	二七	一二三、七〇八

其ノ二

地方	年次	茶植付面積 植付面積 ヘクタール	茶植付面積 生産面積 ヘクタール	乾燥茶生産高 農園産額 瓩	乾燥茶生産高 買上高 瓩	乾燥茶生産高 合計 瓩
爪哇及マブラ	一九二六年	八七、五八〇	七八、五六一	三八、九八〇、〇九四	一五、三八一、八一九	五四、三六一、九一三
	一九二七年	九〇、九五五	七八、六三〇	四三、四六六、六一八	一三、三四三、三六九	五六、七〇九、八八七
	一九二八年	九四、一七〇	八〇、七九五	四七、三〇六、八一四	一六、三〇七、一三七	六三、六一三、九四一
	一九二九年	九五、九八七	八一、七八一	四七、八八三、〇五二	一六、五八四、五一三	六四、四六七、五六五
	一九三〇年	九六、五八九	八五、七七七	四五、七〇七、二二〇	一五、二〇八、七七三	六〇、九一五、九九三
外領	一九二六年	一五、八〇二	一一、一四九	八、五五八、〇七七	—	八、五五八、〇七七
	一九二七年	一八、〇六六	一二、三二八	八、三六八、三七八	—	八、三六八、三七八
	一九二八年	二一、〇七七	一三、四七九	九、三四七、六八八	—	九、三四七、六八八
	一九二九年	二四、四五五	一五、九二九	一一、一五一、八四九	—	一一、一五一、八四九
	一九三〇年	二八、四〇七	一八、二七五	一一、〇七五、二〇四	—	一一、〇七五、二〇四

註リ括弧内ハ虎上園ヲ意味スルモノ

蘭領印度茶ノ世界的地位ニツキテ見ルニ次表ノ如シ

表　世界茶輸出高及蘭印茶輸出高連年比較

（出所ハ前表ト同ジ）

年次	世界輸出数量 米噸	蘭印輸出数量 米噸	蘭印輸出量ノ世界輸出量ニ對スル%
一九二六年	三八七、九七九	六一、七〇〇	一五、九
一九二七年	四一〇、一六一	六五、六〇〇	一六、〇
一九二八年	四一六、六五七	六九、七〇〇	一六、〇

一九二九年	四三六、七三六米噸	七二、四五〇米噸	一六、〇
一九三〇年	三九七、五四五	七二、〇一九	一八、一

煙草

煙草ハ東印度会社ガ設立ナレシ当時既ニ栽培セラレタリト謂ハル、土人ハ土地改良又ハ新種選擇等ノ智識ナキ為メ品質次第ニ劣等トナリ販路ノ擴張モ出来ザリシガ其ノ後一八六四年頃蘭人ハ「スマトラ」東海岸ニ有望ナル煙草耕地ヲ発見シ爾来一八七〇年ヨリ一八八九年迄ニ煙草製造會社續々設立セラレ現在十五ノ大會社アリ「スマトラ」煙草ノ品質ハ爪哇物ヲ凌駕スルニ至レリ、其ノ後爪哇ニ於テモ欧人ニシテ大規模ノ煙草栽培ヲナスモノ現ハレ改良ニ努力セル結果爪哇煙草モ近時名

聲ヲ恢復スルニ至レリ、爪哇ニ於テハ煙草ハ海抜六千呎ノ高地ニマデ植付ケルコトヲ得ルモ高地産ノ煙草ハ黴ヲ生ジ易ク保存困難ナリト稱セラル、本地方ニ於テハ稲ト交互ニ栽培セラル、モ「スマトラ」東海岸ニ於テハ七年ニ一回作トシテ極メテ贅澤ニ土地ヲ利用シツヽアリ。

蘭印ノ主ナル煙草栽培地トシテハ爪哇ニ於テハ東部「ボンドウオソ」及「ジエムベル」州、中部「スマトラ」ノ「スラカルタ」及「ヂヨクヂヤカルタ」ノ二王領州ニシテ外領ニアリテハ「スマトラ」東海岸州ノ「デリ」地方「ランカト」地方及「セルダン」地方トス、爪哇ニ於ケル農園ハ大部分ハ小面積ナルモ「スマトラ」ニ於

ケルモノハ大規模ナリトス。欧人及土人ノ煙草栽培及生産高ニツキ示セバ次表ノ如シ。

欧人煙草園数、收穫面積並生産高表

（出所前表ト同シ）
（單位面積ヘクタール生産高瓩）

其ノ一

地方	年次	自作農園数	原料買上農園数	純作農園		收穫総面積
				園数	收穫面積	
	一九二六年	四七	八一	四三	二七、七五四	二七、三八〇
爪哇及マヅラ	一九二七年	四七	七八	四四	二六、六〇三	二七、三六一
	一九二八年	四四	五三	四一	三〇、四九六	三一、一二三
	一九二九年	四三	六二	四〇	二七、一〇六	二七、七三八
	一九三〇年	四五	六八	四三	三三、四六三	三三、四九一
外領	一九二六年	七〇	—	六五	一八、一〇一	一九、〇八八
	一九二七年	七一	—	六六	一八、五一四	一九、七〇六
	一九二八年	七三	—	六七	一九、三九八	二〇、八〇一
	一九二九年	七二	—	六七	一九、六四二	二〇、九六三
	一九三〇年	七一	—	六七	二〇、〇六九	二〇、二〇八

其ノ二

地方年次	生産高					
	農園生産高		買上高			
	葉煙草	中詰用クロソック	葉煙草	中詰用クロソック	葉煙草計	中詰用クロソック計
一九二六年	一七、一九〇、六九八	一一、二六六、四六四	一、二九一、二九七	九、二六〇、四六〇	一八、四八一、九九五	二〇、五三六、九二四

土人煙草收穫面積

	年次	收穫面積					
爪哇及マツラ	一九二七年	一六、二七二、九九〇	九、三六二、六〇二	一、六一六、六八五	一〇、七〇八、〇八七	一七、八九六、七七五	二〇、〇七〇、六八九
	一九二八年	二二、三九、四七二	九、一四一、六九八	一、一三四、三四九	一一、五四二、二六三	二二、三四八、二八一	二〇、六八四、九六一
	一九二九年	二〇、四七八、七二六	九、三四二、七九〇	一、一五一、三六九	七、八六〇、〇六二	二一、六三〇、〇九五	一七、二〇二、八五二
	一九三〇年	二一、八八七、四〇一	八、一八一、四三三	九八二、八六〇	一〇、三四二、九五五	二二、八七一、二六一	一八、五二五、三八八
領外	一九二六年	二〇、〇四九、六七六				二〇、〇四九、六七六	
	一九二七年	一八、三九一、〇四三	三二八、九三九			一八、三九一、〇四三	三二八、九三九
	一九二八年	二一、一八〇、九一四	四二五三八			二一、一八〇、九一四	四二五三八
	一九二九年	一九、三六五、四九七				一九、三六五、四九七	
	一九三〇年	一九、一七七、八五七				一九、一七七、八五七	

一九二六年	一四〇、二七一（ヘクタール）
一九二七年	一六六、六七四
一九二八年	一七六、五九八
一九二九年	一四六、三五六
一九三〇年	一四九、六一六

珈琲

珈琲ハ甘蔗栽培ト共ニ爪哇ニ於テハ最モ古キ歴史ヲ有スルモノニシテ一六九六年「アラビヤ」ヨリ初メテ輸入サレタルモノナリ、元来蘭印ニ於ケル強制栽培制

度実施当初ニ於テハ本珈琲ハ主トシテ国有ノ珈琲園ニ栽培サレツヽアリシ為之ガ強制ヲ行ハザリシガ一八三二年ニ珈琲令発布セラレ其ノ栽培ハ政府ノ手ニ納メラレ爾後数十年間ハ政府ノ管理ニ属シタルガ一八七〇年ニ土地法ノ発布ニヨリ珈琲モ他作物ト同様私人企業ニ開放サルヽニ到リ官営珈琲園ハ廃止スルニ至レリ。

本地方デハ「アラビカ」種ガ栽培セラレツヽアリシモ珈琲病ノ発生ニヨリ一八七五年頃米利加ヨリ輸入セラレタル「リベリア」種ガ病菌ニ對シ抵抗力アリトナシ栽培セラレタルモ実際ニ於テハ何等前者ト異ルナキニ至リ一九〇〇年「アフリカ」「コンゴー」

地方ヨリ「ロブスタ」種ヲ輸入シタ結果病菌ニ強ク收量栽培等他種ニ比シ經濟的ナルヲ以テ現在ハ殆ンド此種ヲ栽培スルニ至レリ。

最近五箇年間ノ植付面積及生産高ヲ示セバ次表ノ如シ。

珈琲植付面積及生産高逐年比較表

（出所ハ前表ニ同ジ）

（單位ハ面積ヘクタール　数量ハ米噸）

年次	植付面積		生産数量		
	農園	土人	農園	土人	合計
一九二六年	一一七、三五一	不詳	三八、九七八	四八、八一九	八七、七九七
一九二七年	一一八、四四五		六四、三九七	五六、五九四	一二〇、九九一
一九二八年	一二六、七六二		五五、三一四	七〇、六三五	一二五、九四九
一九二九年	一三七、一七一		五五、二八〇	五八、五五三	一一三、八三三
一九三〇年	一三〇、三三七		四〇、三一三	五四、二三六	九四、五四九

歐人農園数、總面積、植付並生産面積及生産高表。

（出所前表ニ同ジ）

地方	年次	總数	生産農園数	總面積（ヘクタール）	珈琲植付面積（ヘクタール）		生産数量（米噸）
					總面積	生産面積	
爪哇及マヅラ	一九二六年	二七一	二四二	三五二、一三六	九五、二八四	七七、六四七	三一、〇二九
	一九二七年	二七四	二四八	三四八、〇七五	九五、〇四二	七五、七二四	五六、三一九
	一九二八年	二八六	二四八	三五五、七八七	九七、三五七	七六、九〇三	四八、一三七
	一九二九年	二九六	二六〇	三六六、七四二	九五、五二〇	七七、八二八	四六、〇九三
	一九三〇年	三〇〇	二六一	三六六、三〇三	九七、一一〇	八〇、九七五	三〇、六七三
外領	一九二六年	九〇	六七	一五五、九二八	二二、〇六七	一四、八三五	七、九四九
	一九二七年	九五	六六	一五七、五四七	二三、四〇三	一三、九〇〇	八、〇七八
	一九二八年	一一四	七〇	一九四、〇〇八	二九、四〇五	一三、九二五	七、一七七
	一九二九年	一二三	七五	一九二、三一四	三一、六五一	一五、四三八	九、一八七
	一九三〇年	一三〇	八四	一九六、二〇二	三三、二二七	一九、五五四	九、六四〇

爪哇ニ於ケル土人ノ珈琲栽培状況ヲ見ルニ次表ノ如シ。

爪哇土人珈琲植付面積及生産面積表

（出所前表ト同ジ　單位ハ面積ヘクタール）

地方別	植付面積			収穫面積		
	アラビカ	ロブスタ	計	アラビカ	ロブスタ	計
西部爪哇	二三一	九八五	一、二一六	一三五	四一四	五四九
中部爪哇	一八三	五、一二一	五、三〇四	一一四	三、八二二	三、九三六
東部爪哇	三、〇四九	六、二四九	九、二九八	一、六一二	三、九五三	五、五六五
計	三、四六三	一二、三五五	一五、八一八	一、八六一	八、一八九	一〇、〇五〇

次ニ蘭印珈琲ノ世界的地位ニ付テ見ルニ次表ノ如シ。

蘭印珈琲世界的地位

（出所ハ前表ト同ジ）（單位ハ米噸）

年次	世界輸出高	蘭印輸出高	蘭印輸出高ノ世界輸出高ニ對スル%
一九二五年	一、二八二、〇〇〇	×六九、七二九	五、四
一九二六年	一、三二四、〇〇〇	×七四、四二二	五、六
一九二七年	一、三九五、〇〇〇	八三、八〇九	六、〇
一九二八年	一、四一三、〇〇〇	一一三、一五八	八、〇
一九二九年	一、三六六、〇〇〇	八〇、七〇二	五、九

註＝×印ノモノハチモール珈琲ヲ含ム

即チ蘭印ハ生産輸出共ニ世界第三位ニシテ第一位ハ南米第二位ハ中米トス。

油椰子

油椰子ノ栽培ハ一八四八年ニシテ其ノ後スマトラ東海岸ニ於テ最初ニ油椰子ノ栽培ヲ企テタルハ白耳義ノ農事会社ニシテ之ハ一九一一年ノ事ナリ。当時

二、三〇〇「ヘクタール」内外ナリシガ一九二五年ニ於テハ植付面積ハ三一、六二九「ヘクタール」ニ達シ一九三〇年ニ於テハ六一、二二九「ヘクタール」ニ及ベリ。油椰子園ノ大部分ハ「スマトラ」東海岸州ナリトス、其ノ農園数、植付並生産面積及生産高ヲ示セバ次表ノ如シ

油椰子園数、植付並生産面積及生産高及輸出高連年比較表

（單位ハ面積「ヘクタール」数量ハ瓩）

（出所ハ一九三〇年輸出物産農産統計）

年次	農園数	植付面積			生産面積	生産高（瓩）		輸出数量	
		爪哇	外領	合計		油椰子仁	油椰子油	油椰子仁	油椰子油
一九二六年	五二	六五〇	二八、八七五	二九五二三	一、六二七、二三〇	一、六二七、二三〇	九、五〇六、七七九	※二、一九七、五四八	※一三四〇五、七三六
一九二七年	五四	五二七	四二、七四〇	四三二六七	三、八七五、九三九	三、八七五、九三九	一九、四九三、三一七	三七七、六七九	※二、六三七、六一一
一九二八年	五二	四七二	四九八五二	五〇、三二四	五、七六七、二五八	五、七六七、三五八	三七、〇三〇、一三七	五、七三一、七〇九	※二、八六九、七三五
一九二九年	四八	六六五	五七、〇四六	五七七一一	七、〇六五、五一四	七、〇六五、五一四	三五九七〇、七〇六	六、八三六、五六二	※三五八、七六八九
一九三〇年	四八	七〇七	六〇、五二二	六一、二二九	九、八二〇、五四八	九、八二〇、五四八	四九、七五一、六九五	九、六三九〇六六	四八〇一四、五九六

註　※ヲ付セルモノハ風袋込数量ナリ更ニ之ヲ各栽培地別ニ区分スレバ左ノ

如シ。

各州別油椰子園数植付並生産面積及生産高表

（出所ハ前表ト同ジ）

地方別 年次	農園数		植付面積（ヘクタール）		生産高（瓩）	
	総数	生産園数	総植付面積	生産面積	椰子油	油椰子仁
爪哇及マヅラ合計						
一九三〇年	四	三	七〇七	一四四	九二、四八二	一一、二二三
一九二九年	四	三	六六五	一三五	一四六、一二五	一五、二二四
一九二八年	四	一	四六二	一二九	一六三、六九二	一三、七五〇
一九二七年	九	二	五二七	一二四	五七、八一九	七、一四〇
一九二六年	一〇	一	六五〇	八四	二〇、七八九	一
外領合計						
一九三〇年	四四	三一	六〇、五二八	二九、八七三	四九、六五九、二一三	九、八〇九、三二五
一九二九年	四四	三〇	五七、〇四六	二三、三三八	三五、八二四、五八一	七、〇五〇、二九〇
一九二八年	四八	三二	四九、八五二	一八、九〇四	二六、八六六、四四五	五、七五四、五〇八
一九二七年	四五	三一	四三、七四〇	一五、八九〇	一九、四三五、四九八	三、八六八、七九九
一九二六年	四二	二一	二八、八七三	一〇、八八三	九、四八五、九七〇	一、六三七、二三〇

註　一九二六年ノ数字ハ不完全ナルモノニシテH.V.A.ノ数字ヲ含マズ

古々椰子　本植物ハ植付後六、七年ニシテ結実シ十四、五年ニシテ最盛期ニ達シ樹齢ハ七、八〇年トス豊年ノ際ハ一本ニ二五

〇箇以上ノ果実ヲ採集シ得ルガ平均一年一本ニツキ六、七〇箇トス、樹間ハ一〇米乃至一二米トス一バツ（七反）当リノ本数八〇本乃至一二〇本トス其ノ生産ハ約一八擔トス。従来椰子油製造業ハ土人ガ家庭的ニ又支那人及アラビヤ人ガ小規模ノ設備ヲ以テ経営シツ、アリシガ二十年前欧人ガ小規模工場ヲ建設シ其ノ後新式大規模工場ガ爪哇ニ十数箇所外領ニ七、八箇所設置サレタリ。之ハ土人ノ主要食料品トシテ消費量モ巨額ニ達シ土人一人一箇年平均九〇個ヲ要スルニ依リ総土人人口五千九百万人ニ対シ大体五七二、三〇〇噸ヲ必要トス其ノ外輸出量八一年四五〇、〇〇

ロ噸ナルヲ以テ一箇年百万噸ノ生産額アリトス。即チ農園数植付面積及生産高次表ノ如シ

各州別古々椰子園数植付並生産面積及生産高表

（出所〃一九三〇年輸出物産農産統計）

地方名	農園数		植付面積（ヘクタール）		古々椰子果及コプラ生産高				
	総数	生産中	総植付面積	生産面積	農園生産高		土人コプラノ買上高（擔）	合計	
					古椰子果（箇）	コプラ（擔）		古椰子果（箇）	コプラ（擔）
爪哇及マヅラ合計 一九三〇年	一二五 （一五）	一二四	七、七一九	四、七八二	四、〇一八、〇五二	四一、〇〇二 （二、五三二、三八（噸））	一六〇 （九、八八二（噸））	四、〇一八、〇五二	四一、一六二 （二、五四二、二六五（噸））
一九二九年	一二四 （一三）	一一七	七、九九一	四、七五八	五、七七六、二二二	四五、八三三 （二、八三〇、四六（噸））	三〇五 （一八、八三七五（噸））	五、七七六、二二二	四六、一三八 （二、八四九、四八二（噸））
一九二八年	一三二 （一一）	一一九	八、三一七	四、七九八	五、四一五、二三一	三六、八四二 （二、二七五、三六二（噸））	一〇五 （六、四八五（噸））	五、四一五、二三一	三六、九四七 （二、二八一、八四七（噸））
一九二七年	一三二 （三）	一〇九	八、三一六	四、三七九	三、九五四、五三三	一七、七八五 （一、〇九八、四〇二（噸））	一、二六六 （七八、一八八（噸））	三、九五四、五三三	一九、〇五一 （一、一七六、五九〇（噸））
一九二六年	一三五 （一一）	一一五	八、四二六	四、〇四九	三、三六二、九四五	二一、三三八 （一、三一七、八五（噸））	四、七〇六 （二九〇、六四三（噸））	三、三七八、九四五	二六、〇四四 （一、六〇八、四九七（噸））
外領合計 一九三〇年	五五四 （四）	四五五	四三、九一四	二三、八二九	四、四二〇、四八六	三三八、五八五 （二〇、九一一、〇一〇（噸））	三七、六一三 （二、三二二、九七九（噸））	四、四二〇、四八六	三七六、一九八 （二三、二三三、九八九（噸））
一九二九年	五一八	四三三	四三、六七四	二三、一三七	三、七五九、〇〇二	三一八、三九七	三八、四三〇	三、七五九、〇〇二	三五六、八二七

一九二九年	（一）					（九、六六四、一九九瓩）	（一三七三四三六瓩）		（一三〇四六三五瓩）
一九二八年	四二八	三四六	四二三六五	二〇四〇五	三七七二〇四三	三〇六、四七三	四五、〇〇一	三七七二〇四三	三五一四七八
	（三）					（八九三七七二瓩）	（二七七九五、六瓩）		（三七〇七、二八一瓩）
一九二七年	四二二	三二八	四三三八三一	三一〇八四	四一二三四九七	二四三、七八〇	二四、二一七	四一二三四九七	三六六、九九〇
	（二）					（一四九四〇三二瓩）	（一四九五、三一〇瓩）		（三六四、九三〇二瓩）
一九二六年	三九八	二九九	四三三七〇	一九六三四	八九二八七八四	二一七一六	二七、一六九	八九二八七八四	二四四、六八五
						（一三、九九四瓩）	（一六七七六五七瓩）		（一五一、九二三瓩）

註　農園数ノ側ノ括弧中ノ数字ハ正式ノ農園トシテ存在スルモノニアラズ散在的ニ植付ケラレタルモノナリ。又生産高ノ側ニアル括弧内ノ瓩ノ欄ヨリ採算シタルモノナリ。

農園コプラ輸出数量連年比較表

單位＝米噸

出所リ同前表

年次	爪哇		外領		合計	
	輸出	内農園生産	輸出	内農園生産	輸出	内農園生産
一九二六年	一四一〇九	二、〇七七	三六二七七三	一五、五〇五	三七六、八八二	一七、五八二
一九二七年	三七一八	二〇一八	三〇一、五九九	一五、九五一	三〇五、三一七	一七、九六九
一九二八年	四七五三四	三五三四	三九三、三一七	一九、八〇五	四四〇、八五一	二三、三三九
一九二九年	五二八五八	四一七一	四〇四、〇一一	二〇、三〇六	四五六、八六九	二四、四七七
一九三〇年	七三五八	三四六六	三六八、三五九	二一、九三九	三七五、七一七	二五、四〇五

上表ニ見ルガ如ク農園ノ輸出ハ実ニ微々タモノニシテ土人生産ノモノハ断然優位

ヲ占ム。更ニコプラ油ノ輸出状況ヲ観ルニ左ノ如シ。

古々椰子油輸出数量逐年比較表

出所 同前表

年次	古々椰子油（瓩） 爪哇	 外領	 合計	コプラ等量（米噸）
一九二六年	一六、五〇一、五二九	五九、三六三	一六、五六〇、八九二	二四、九三六
一九二七年	九、六四八、九九六	一七、四五六	九、六六六、四五二	一四、五五五
一九二八年	三六、六二三、七四九	三六、二八九	三六、六六〇、〇三八	五五、一九九
一九二九年	三四、四三二、六七九	九、九三二	三四、四四二、六一一	五一、八六〇
一九三〇年	一六、〇二八、五七五	七三、九二一	一六、一〇二、四九六	二四、二四六

カボツク原産地ハ南米ナルモ蘭印地方ニハ古クヨリ栽培サル土質ヲ選ベザル点ニ於テ土人ノ副業トシテ好適ス。爪哇ニ多ク栽培サレ外領ニ僅少ナリ、農園ニ栽培サル、モノハ多ク珈琲又ハ「カヽオ」ノ樹下ニ植付ケラル純林ハパスルアン州其ノ他ニ数園アルノミ、一九三〇年ニ於ケル農園

数ハ瓜哇九八、外領ニ四計一二二園トス農
園ノ植付總面積ハ一〆、六六四「ヘクタール」
ニシテ内七、四一四「ヘクタール」ハ生産面積
ナリ、瓜哇ニ於テハ「ベカロンガン」（三三七
七「ヘクタール」）スマラン（三八一七「ヘク
タール」）ブリタル（一、五〆〆「ヘクタール」
）クラワン（一、五一三「ヘクタール」）クラ
ワン（一、五一三「ヘクタール」）東部プリア
ンガン（一、三三〆「ヘクタール」）デエムベ
ル（一、一九〇「ヘクタール」）ノ諸州ナリ。
土人「カポツク」業ノ盛ナル地方ハ瓜哇ニ
於テハ「スマラン」州ノ「ムリア」地方西部瓜哇
殊ニ西部「プリアンガン」地方「スラカルタ」及
ヂヨクヂヤカルタ」ノ各州ニシテ外領ニ於

テハ「アチエー」「セレベス」「バリ」及「ロンボク」等ナリ。

「カボツク」精製所ハ爪哇ニ八一「アチエー」州ニ五、計八六箇所アリ其ノ生産量ハ一九三〇年ニ於テ爪哇五、三一五、〇六六瓩外領七〇、四〇六瓩合計五、三八五、四七二瓩ナリ。

今園数植付面積、生産高等ヲ示セバ次表ノ如シ。

欧人カボツク園数、植付並生産面積及生産高表

（単位＂面積ヘクタール、生産高瓩
出所＂一九三〇年農業輸出物産統計）

年次	農園数	植付面積、		生産高				
		植付面積	生産面積	未精製カボック	精製カボック	同上賣上高	種子	同上賣上高
一九二六年	七二（十三）	一三、一六九	八、〇八四	四三八、八〇〇	一、三六、七五七	一六五、二七〇	三、二五五、五九四	二二三、三八六
一九二七年	七九（十二）	一三、七七一	七、五六六	四四〇、八三三	一、一六五、一二六	九二、三一一	三、〇二四、九七二	一六三、二三二
一九二八年	八九（十二）	一四、一〇六	五、八〇七	三五一、〇五四	一、四四一、九一一	一三七、四七二	三、二九五、七四三	二三四、一二七
一九二九年	一〇五（十四）	一五、三一六	七、一一七	四一八、七三三	一、六〇六、六二五	一〇八、九四五	三、八〇六、九三〇	一八一、六三六
一九三〇年	一三二（十八）	一七、六六四	七、四〇三	五二五、四五四	一、四三〇、一〇九	九五、二三四	三、五九三、四二六	一五七、四八八

土人ノカボツク産出高ハ不詳ナリ。

カカオ現在爪哇ニ栽培サレテ居ルモノハ「クリオロ」種及「フオラステリオ」種ナリ

カカオ園ハ合計二一園アリスマトラ東海岸州（一園）ヲ除ケバ總テ爪哇ニアリスマラン（一〇園）ペカロンガン（二園）スラカルタ（二園）ヲ主産地トス。農園数及植付面積及生産高ヲ示セバ次表ノ如シ。

欧人カカオ園数、植付面積、生産高及輸出高表

（出所ハ一九三〇年輸出農業物産統計）

年次	農園数	植付面積			生産高（米噸）	輸出高（米噸）		
		純作	混作	計		爪哇	外領	計
一九二六年	一九	一、五三八	三、三三五	四、八七三	七七五	九〇四	一五七	一、〇六一
一九二七年	一六	九九九	三、四七八	四、四七七	七二六	八九八	八五	九八三
一九二八年	一七	一、〇三二	四、三〇九	五、五四一	九二四	一、〇二三	九四	一、一一七
一九二九年	二一	一、一二三	四、〇二八	五、一五一	一、一五四	一、三二六	六四	一、三九一
一九三〇年	二一	一、一二二	四、二三四	五、三五六	一、二〇二	一、四〇八	五五	一、四六三

胡椒　印度及蘭領地方ヲ原産地トス高サ一五米内外ノ蔓性多年木ニシテ其ノ主産地ハ「スマラン」島ニシテ「ラムボン」「パレムバン」「ベンクーレン」「アチエー」及「ベンカ」島ハ其ノ主ナルモノナリ尚ボルネオ沿岸ニ於テモ盛ニ栽培サル。

胡椒ハ市價ノ変動甚ダシキモノナリ、其ノ栽培ハ主トシテ土人及支那人ニ依リ行ハレ欧人農園ノ産額ハ少シ、欧人農園ハ十七アルカ内九園ハ爪哇ニ八園ハ外領ニ在リ其ノ産額ハ一九三〇年ニ於テ二四〇噸ニシテ其ノ中爪哇一九〇噸外領五〇噸ナリトス。農園数植付面積及生産高ヲ示セバ次ノ如シ。

欧人胡椒園数、植付面積、生産高及輸出高表

（出所〃一九三〇年輸出農業物産統計）

年次	欧人農園数	植付面積（ヘクタール）	農園生産高（瓩）	蘭印總輸出高（米噸）
一九二六年	一二（十、一三）	一、五二三	一八六、五七七	二四、四九四
一九二七年	一八（十　七）	一、三一二	一六七、九二五	二一、三一九
一九二八年	一五（十　九）	一、五二七	八六、八三五	二四、二二九
一九二九年	一四（十　九）	一、三五二	一五八、二九一	二八、一九一
一九三〇年	一七（十一一）	一、七一八	二四七、二八七	三二、三九九

土人胡椒　最モ重要ナル土人胡椒ノ栽培地ハ「ランポン」、「バンカ」、「アチエー」及南東部「ボルネオ」ノ各州ニシテ蘭領印度輸出ノ最大部分ヲ占ム而シテ其ノ輸出可能量ハ次ノ如シ。

州別土人胡椒輸出可能量表

（單位〃瓩）
（出所〃同前表）

地方名	黒胡椒	白胡椒	合計

外領合計

一九三〇年	二〇、四三八、八五九	一三、八四一、八〇八	三三、二八〇、六六七
一九二九年	一九、〇三三、六四三	九、六六〇、四〇九	二八、六九四、〇五二
一九二八年	一六、八一五、〇七九	七、七四一、四六五	二四、五五六、五四四
一九二七年	一三、一三八、四〇七	七、九一〇、八五一	二一、〇三九、二五八
一九二六年	二〇、六一二、五五五	五、八七九、六一四	二六、四九二、一六九

輸出　蘭領印度ヨリノ胡椒ノ輸出数量八三、三九九噸ニシテ之ハ世界輸出総量ノ約七割五分ニ相当ス。

カツサ、ヴタピオカ澱粉ノ原料ニシテ原産地ハ「ブラジル」ナリ、爪哇ニ於ケル中心地ハ「スラカルタ」「ヂヨクヂヤカルタ」「ボヂヨネゴロ」「マヂウン」「ポノロゴ」「ブリタル」ノ諸州及「マブラ」島ナリ。其ノ栽培面積及生産高ヲ示セバ次表ノ如シ。

土人ノ收穫面積及生産高

（出所＝南洋年鑑）

年次	收穫面積（ヘクタル）	生産量（噸）

一九二六年	六八〇、〇〇〇	五、四九八、〇〇〇
一九二七年	八二五、〇〇〇	六、八九九、〇〇〇
一九二八年	七三九、〇〇〇	六、一六、〇〇〇
一九二九年	七一〇、〇〇〇	五、一二九、〇〇〇
一九三〇年	六五〇、〇〇〇	五、二一六、〇〇〇

タピオカ物産輸出高表

（單位ハ米噸）

（出所ハ前表ト同ジ）

年次	ガプレク	ガプレク粉	タピオ、粉	フレーク及シフティングパール及シード	屑	計
一九二六年	三五、九〇八	一五、三一七	八三、六三三	五、〇三二	一二、八九九	三、九二八	一五五、七六一
一九二七年	二六、六八七	九六、〇一〇	一〇四、五八八	五、〇〇五	一三、二六三	三、八八四	二四八、八三七
一九二八年	五五、九四九	二七四、五四七	一三六、九二一	一〇、三三九	二六、六五二	一〇、二二二	三一八、五九二
一九二九年	二〇、三八六	九九、六四五	一一〇、七〇八	六、九三三	一九、〇五五	七、五〇七	二六六、二八四
一九三〇年	一一、〇二二	二八、六二一	七五、〇五七	四、八二〇	一〇、八七九	四、六二六	一三五、〇二五

コカ　原産地ハ秘露及「ボリビア」ナリ爪哇ハ世界ニ於ケルコカノ最大産地ニシテコカ市場ヲ左右スル力ヲ有ス。東部爪哇ハコカノ最大産地トス一九三〇年ニ於テハ東農園ハ東部爪哇ニ五其ノ他ニ八アリ邦人

ノ「スマトラ」興業ハ之ヲ栽培ス農園数及植付面積及生産高ヲ示セハ次ノ如シ。

欧人コカ園数、植付並生産面積及生産高表

（出所ー一九三〇年輸出農業物産統計）

地方別	農園数	生産園数	植付面積（ヘクタール）	生産面積（ヘクタール）	コカ生産高
東部爪哇	五（十四四）	二二	五二二	四八六	一六二五九二斤
其ノ他ノ蘭領印度	八（十一八）	一〇	三九七	三八九	二〇〇、四〇八
蘭領印度合計一九三〇年	一三（十五三）	三二	九一九	八七五	三六三、〇〇〇
一九二九年	一七（十四六）	四三	一〇七三	一〇三七	四八五、四〇七
一九二八年	二〇（十五六）	四三	一一六二	一、一四七	四五五、六七七
一九二七年	二六（十六九）	五〇	一、三〇四	一、二六〇	六三五、〇八四
一九二六年	三七（十七七）	九〇	二、〇六八	一、五九一	一、〇〇二、八七〇

備考　括弧内ノ数字ハ道路畔ニ植付ケラレタルエステートノ数ナリ。

肉荳蔲　多年生ノ樹木ニシテ実ハ椿ノ実ニ似香料トシテ使用ナル一九三〇年ニ於テハ爪哇ニハ欧式農園一三園其ノ他ニ

園計一五園アリ農園数植付面積生産高等次ノ如シ。

欧人肉荳蔲園数植付並生産面積及生産高表

（出所＝一九三〇年輸出農業物産統計）

地方名	農園数	生産園数	植付面積	生産面積	肉荳蔲生産高	花肉荳蔲生産高
爪哇マヅラ計 一九三〇年	一三 （十三）	一三	一、三三八	八二八	三八四七擔 十 六〇〇〇〇箇 （一六五八三一斤）	五七二擔 （三五三二七斤）
一九二九年	一三 （十三）	一四	一、〇六三	七九九	三四五二擔 十 六〇〇〇〇箇 （二一三二五七斤）	六六五擔 （四一〇七〇斤）
一九二八年	一三 （十三）	一四	一、二九二	七二〇	二三〇二擔 十 六〇〇〇〇箇 （一四三、一七一斤）	四〇五擔 （二六三四八斤）
一九二七年	一三 （十二）	一二	一、一四五	六八二	三〇五二擔 十 三二〇〇〇箇 （一八四九二斤）	五九〇擔 （三六四三八斤）
一九二六年	一三 （十五）	一六	一、一五二	七八七	一、六五七擔 十 三〇〇〇〇箇 （一〇三三三六斤）	三一五擔 （二三一七〇斤）
爪哇合計 一九三〇年	一一	一〇	九七〇	八九七	五、一七五擔 （三一九六〇八斤）	八七九擔 （五四三八七斤）
一九二九年	一〇	六	一、〇〇七	八五八	四、七〇四擔 （二九〇、五一九斤）	七九六擔 （四九、一六一斤）
一九二八年	八	八	八九一	七九七	三、五三一擔 （二一八、〇七五斤）	五六四擔 （三四、八三五斤）
一九二七年	六	五	四一二	三九五	一、五二五擔	二三九擔

一九二七年	一九二六年	
	六	
	五	
	四一二	
	三九五	
（九四、八四〇斤）	一、七一三擔	（〇五七、九五〇斤）
（一四、七六一斤）	二七三擔	（一六、八六〇斤）

輸出　一九三〇年ノ輸出ヲ見ルニ「モルッケン」群島（肉荳蔲一三六四噸花肉荳蔲二四〇噸）、「メナド」州（肉荳蔲一、二八五噸花肉荳蔲一四二噸）「セレベス」州（六九八噸ニ五二噸、内野生肉荳蔲一九八噸ニシテ又「スマトラ」ヨリ西海岸州（二九四噸、ニ三噸）、「タパヌリ」州（六噸、二噸）「アチエー」州（一一一噸一七噸）ニシテ外領合計輸出量ハ皮付二、二八五噸脱皮一、四七四噸、花肉荳蔲六七六噸ナリキ。

ガムビル（阿仙薬）　單寧材料トシテ有名ナリ産地ハ外領トス農園数植付、生産

面積及生産高ヲ示セバ次ノ如シ。

欧人ガンビル園数、植付並ニ生産面積及生産高表

出所「一九三〇年輸出農業物産統計」

地方別	農園数	生産園数	植付面積（ヘクタール）	生産面積（ヘクタール）	生産高（瓩）
スマトラ東海岸州及リオー州	一三	三	一、四九七	一、四一六	四、〇六五、五八六
ボルネオ	一二	七	四四四	三五八	四一四、九八八
合計 一九三〇年	一五	一〇	一、九四一	一、七七四	四、四八〇、五七四
一九二九年	一三	一〇	二、六五一	二、三三一	四、三四二、三四〇
一九二八年	一〇	八	二、四九五	二、三四九	四、一七七、九〇六
一九二七年	一一	八	三、二一九	二、四五一	四、〇二一、八六〇
一九二六年	九	八	三、一〇四	二、四六一	三、四六一、八八九

土人「ガムビル」　土人栽培地ハ主トシテスマトラ・東海岸州及西海岸州「パレムバン」、「リオー、ベンカ」及西部「ボルネオ」州ナリ。土人「ガムビル」ハ生産高不明ナルモ各州別ノ輸出可能量ハ次ノ如シ

米蘭印住民大多数ノ常食物ナルモ爪哇ノ東部、小「スンダ」列島「セレベス」ノ北部ハ米ト玉蜀黍、又ハ「タピオカ」ヲ主食物トシ「モルゲン」郡島ノ住民ハ「サゴ」ヲ主食物トス。従来土人ノ主食物ハ玉蜀黍又ハ「タピオカ」ナリシモ近世土人ノ購買力及生活程度ノ向上ニ依リ米ノ需要増加シ領内ノ産米量ヲ

以テシテハ需要ヲ充シ得ザル実情ナリ。

主産地ハ爪哇ノ中西部外領ノ「ベリ」「ロンボク」「セレベス」南部地方ナリ。爪哇ニ於テハ年々三五〇萬噸内外ノ米ヲ産スルモ領内ノ需要ヲ充シ得ズシテ数十万噸ノ輸入ヲナス。爪哇ノ米田ハ主トシテ水田ニシテ一九三〇年ニ於テハ植付面積ノ八七%ガ水稲ニシテ一三%ハ陸稲ナリ。米作面積及收穫高ハ次ノ如シ。

爪哇米作面積及收穫高表

出所＝一九三〇年輸出農業物産統計

年次	收穫面積（千ヘクタール）	收穫高（噸）
一九二六年	三、三九五	三、五〇七、四八〇
一九二七年	三、五四三	三、六〇六、五六二
一九二八年	三、五二六	三、四七八、五五五
一九二九年	三、四二三	三、三七八、六九九
一九三〇年	三、五五九	三、六四五、五一三

一九三〇年外領州別米輸出入高表

單位ハ米噸　出所ハ同前表

地方別	一九三〇年 輸出	一九三〇年 輸入	輸出・入超過 一九三〇年	輸出・入超過 一九二九年	輸出・入超過 一九二八年
一九三〇年合計	三六、二一四	四三八、六一〇	四〇二、三九六		
一九二九年	四五、九九三	四四八、三九〇		四〇二、三九七	
一九二八年	四九、三七七	四六五、二八三			四一五、九〇六

玉蜀黍全部土人ニ依リ栽培サルルモトシテ土人ノ食料ニ充テラル近年之ガ輸出サルルモノヲモ増加シ雑穀類ノ輸出ノ大宗トナレリ邦人商人ニシテ取扱ルモノヲシ。

收穫面積、生産高、輸出高等ヲ示セハ次ノ如シ。

瓜哇玉蜀黍收穫面積、收穫高及輸出高比較表

出所ハ一九三〇年輸出農業物産統計

年次	収穫面積（ヘクタール）	収穫見積高（噸）	外国ヘノ輸出高（噸）	収穫高ニ對スル輸出ノ割合（%）
一九二六年	一、九六二	二、〇三四、五〇〇	註 四五、〇七三	二、三
一九二七年	一、九三四	二、〇三四、四〇〇	三八、二一七	一、九
一九二八年	一、八六二	一、九四三、一〇〇	一六三、七八二	八、四
一九二九年	一、七〇五	一、五七六、四〇〇	一〇四、六九五	六、六
一九三〇年	二、〇〇一	二、〇〇六、三〇〇	七八、八〇七	三、九

註　一九二六年ハ風袋込数量他ハ純数量

苧麻主要栽培地ハ爪哇及「マブラ」ニシテ中部爪哇ノ「クドス」及「スラカルタ」東部爪哇ノ「グリセー」「ポノロゴ」「プロボリンゴ」ヲ主トス。

収穫面積及輸出高等ヲ示セハ次ノ如シ

苧麻収穫面積及輸出高

出所：一九三〇年輸出農業物産統計

年次	収穫面積（ヘクタール）	輸出量（米噸）	苧麻油輸出高（立）	苧麻油輸出高（盾）
一九二六年	一一、四一三	〆二、七九五	九二、二五二	四四、一九四
一九二七年	九、九四〇	六三六七	八一、五二八	四〇、九六三
一九二八年	一一、五一四	二、五三七	五〇九	二五〇
一九二九年	一〇、〇八八	三、四六二	一九〇	一〇〇
一九三〇年	一〇、九七四	六、五九三	二七、五三一	一三、五九九

註：〆印ハ風袋込数量其ノ他ハ純数量

トス。

仕向国別蓖麻子輸出高

（單位ハ数量ハ米噸價額ハ盾
出所ハ貿易年報）

年次	日本	濠州	伊太利	其ノ他	計
一九二六年	二四〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一一一、〇〇〇	九三、〇〇〇	四二八、〇〇〇
一九二七年	五四一、〇〇〇	一一八、〇〇〇	一七三、〇〇〇	四三、〇〇〇	八七五、〇〇〇
一九二八年	二〇三、〇〇〇	一一五、〇〇〇	六四、〇〇〇	三、〇〇〇	三八五、〇〇〇
一九二九年	二八一、〇〇〇	一八七、〇〇〇	三七、〇〇〇	ー	五〇五、〇〇〇
一九三〇年	八一三、〇〇〇	八七、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一三、〇〇〇	九二三、〇〇〇

芳香油植物

蘭領印度ハ芳香油植物ニ富ミ其ノ主ナルモノハ「シトロネラ」「カユプテ」「カナンガ」「パチヨリ」及「レモングラス」等ニシテ「シトロネラ」栽培最モ盛ンナリ。

「シトロネラ」（一名セレ）農園、土人共ニ之レヲ栽培ス栽培地ハ主トシテ爪哇ナルモ「スマトラ」「セレベス」ノ二島ニモ若干栽培サル、「シトロネラ」油ハ本草ヲ乾燥乾溜シ

テ採取セラル而シテ「ゲラニヨール」ノ含有多キヲ以テ優良品トサレ取引ハ含有八五%ヲ標準トシテ行ハル。

欧人「シトロネラ」園数植付並ニ生産面積及生産高表

（單位＝面積－ヘクタール 産額
出所＝一九三〇年輸出農業物産統計）

地方名	農園数		シトロネラ植付面積		シトロネラ油生産高		
	合計	生産中	総植付面積	生産面積	農園生産高	買上高（土人ヨリ）	合計
爪哇及マヅラ合計 一九三〇年	九〇（+一六）	八〇（+一六）	一〇、五二五	八、七九〇	四〇二、三八九	五八、七八五	四六一、一七四
一九二九年	九三（+一三）	七六（+一三）	一〇、三三三	八、九九六	三四五、九八七	六九、六五七	四一五、六四四
一九二八年	一一一（+一一）	九二（+一一）	一三、三七四	一〇、六六四	五五八、九五〇	一三三、六五一	六九二、六〇一
一九二七年	一三五（+一二）	一一六（+一二）	一四、八四七	一三、〇四一	七四八、六五五	二〇一、三七三	九五〇、〇二八
一九二六年	一一九（+七）	一〇三（+七）	一四、二三五	一二、二七四	七六四、七〇八	一〇八、四三六	八七三、一四四
外領合計 一九三〇年	九	五	三五四	一四二	一〇、一二一	二八六	一〇、四〇七
一九二九年	八	五	五〇二	一二七	一三、五〇五	一、一八四	一四、六八九
一九二八年	七	六	三九六	二〇三	八、一四九	二五三	八、四〇二
一九二七年	一二	七	六七五	六〇三	三六、七五七	八五三	三七、六一〇
一九二六年	一四	一〇	八四七	七二八	五七、三五七	七、三二七	六四、六八四

註 農園数欄ノ括弧内ノ数字ハ買上ノミヲ為シテ操業スルモノナリ。

「シトロネラ」生産及輸出数量連年比較表

單位リ瓩　出所リ同前表

年次	農園生産品	農園買上品	土人工場製品	合計生産高	輸出高
一九二六年	八二二〇六五	一一五七六三	×	九三七、八二八	一、一九七、〇四六
一九二七年	七八五、四一二	二〇二、二二六	×	九八七、六三八	一、三一五、八二四
一九二八年	五六七、〇九九	一三三、九〇四	×	七〇一、〇〇三	一、一四一、〇八〇
一九二九年	三五九、四九二	七〇、八四一	一一三、七一九	五四四、〇五二	八七九、〇〇七
一九三〇年	四一二、五一〇	五九〇七一	七〇、三九〇	五四一、九七一	八一七、五六三

織維植物　蘭領印度ニ栽培サル織維植物ハ前述セル「カポック」ノ外ニ「シサル」麻、「カンタラ」麻、「ロゼル」麻及「マニラ」麻等ナルガ「シサル」ト「カンタラ」トガ最モ重要ナルモノニシテ生産高ハ世界第二位ニ在リ世界總輸出高ノ一九%ニ該当ス。

欧人農園数、植付並ニ生産面積及生産高ー

前記各麻類ノ栽培ニ関スル統計ヲ示セバ左ノ如シ。

一九三〇年各種別欧人繊維植物園数植付並ニ生産面積及生産高表

出所ハ一九三〇年輸出農業物産統計

地方別	欧人農園数	生産園数	植付面積（ヘクタール）	生産面積（ヘクタール）	生産高（瓩）
ミサル麻　西部爪哇	三	二	四、八八八	四、三〇五	八、三六七、八七三
中部爪哇	七	六	一、四二〇	一、〇一七	一、一五四、七二七
東部爪哇	四	三	三、一五五	一、六七五	三、三〇七、五三九
爪哇及マヅラ計	一四	一一	八、四六三	六、九九七	一一、七三〇、一三九
スマトラ	五	三	四、〇八一	二、三六六	三二三、五五三
バリ、ロムボク	一	|	一	|	|
外領計	六	三	四、〇八三	二、三六六	三二三、五五三
蘭領印度合計	二〇	一四	一二、五四六	九、三六三	一二、〇五三、六九二
カンタラ麻　西部爪哇	一	一	九二	九〇	一九、八八七
中部爪哇	一一	一〇	六、七一〇	四、七六一	四、〇三〇、九五一
爪哇及マヅラ計	一二	一一	六、八〇二	四、八五一	四、〇五〇、八三八
外領　南部スマトラ	一	一	六	六	六五、五三二
蘭領印度合計	一三	一二	六、八〇八	四、八五七	四、一一六、三七〇
ロゼル麻　爪哇及マヅラ西部爪哇	一	一	二五	九	一、三六四
蘭領印度合計	一	一	二五	九	一、三六四
マニラ麻　外領南部スマトラ	一	一	五一七	五一七	二二五、〇〇〇

一、蘭領印度ト各国ノ投資

出所ハ南洋協會雑誌第七、八

作物別	投資額
	盾
砂糖	八五〇、〇〇〇、〇〇〇
煙草	一二五、〇〇〇、〇〇〇
護謨、茶、規那皮、珈琲其ノ他	八四八、〇〇〇、〇〇〇
計	一、八二三、〇〇〇、〇〇〇

各国別投資額調

出所ハ前表ト同ジ

国別	投資額	比率
	盾	%
和蘭	一、二一九、二七〇、〇〇〇	六七、〇〇
英国	二四六、七〇〇、〇〇〇	一三、〇五
支那	二〇六、五八五、〇〇〇	一一、三七
白国	三五、七〇〇、〇〇〇	一、九六
日本	二八、九五〇、〇〇〇	一、五〇
佛国	二七、八五〇、〇〇〇	一、五〇
米国	二七、五〇〇、〇〇〇	一、五〇
獨逸	八、一〇〇、〇〇〇	〇、四四
瑞西	六、〇五〇、〇〇〇	〇、三三
アラビア・アルメニア	四、一〇〇、〇〇〇	〇、二三
瑞典、諾威	三、六五〇、〇〇〇	〇、二〇
其他	八、六〇五、〇〇〇	〇、四七
計	一、八二三、〇五〇、〇〇〇	

一三　牧畜業

蘭領印度ニ於ケル牧畜業ハ他ノ諸国ト

趣ヲ異ニシ主トシテ農耕用ニ飼育サレ肉用ハ第二次的ナリ土人間ニ於テハ家畜ヲ飼フ事ハ最モ安全ナル財産デアリ何時ニテモ現金ニ代ヘ得ルモノトノ習慣アリ本地方ニ於ケル主要家畜ハ馬、牛、豚、羊、山羊及水牛ナリ、回教徒ハ絶對ニ豚肉ヲ食セザル慣習ヲ有ス。

——ニテ家畜ノ多キ地方ハ爪哇及「マヅラ」地方ニシテ大家畜總飼育数ノ約七〇%ヲ占メ小「スンダ」列島ハ一二%「スマトラ」ハ九、五%、「ボルネオ」ハ五%ヲ占ム。

爪哇ノ大家畜總頭数ハ六、〇一七、二五四頭ニシテ人口千人當一四七頭ナリ、一方粁當四五、五頭ノ密度ナリ、牧畜ノ最モ盛ナル

地方ハ「マヅラ」島ニシテ一方粁当一二〇頭ナリトス。

最近五箇年間ノ大家畜数ヲ示セバ次ノ如シ。

最近五箇年大家畜数表

（出所〃一九三一年統計年報）

年次地方別		牛	水牛	馬	計	人口千人当	一平方粁当
一九三〇年		三、六四二、一九〇	二、一二五、六二九	三四九、四三五	六、〇一七、二五四	一四七	四五、五
一九二九年	爪哇及マヅラ地方	三、六〇一、六九四	二、〇九七、八九九	二五二、二〇〇	五、九五一、七九三	一五九	四五、二
一九二八年		三、五三三、四九五	二、一二五、〇三〇	二四八、一二五	五、九〇五、六五〇	一五八	四四、九
一九二七年		三、五六八、六八七	二、二一二、七二七	二五七、五四三	六、〇三八、九五七	一六二	四六、〇
一九二五年		三、四九三、四一八	二、三三七、九八五	二六六、七〇〇	五、九八八、一〇三	一六四	四五、六
一九三〇年	外領地方	九一、九一二	一、一五三、四四三	四三一、六三三	二、四九五、九八八	一三七	一、四
一九二九年		八七一、四二二	一、一七七、九四六	四五五、七七五	二、五〇五、一四三	一六三	一、四
一九二八年		八七四、一九一	一、一四七、八九六	四五八、三一一	二、四八〇、三九八	一六一	一、四
一九二七年		八七〇、一二〇	一、一一〇、七三〇	四五一、四〇六	二、四三三、二五六	一五八	一、四
一九二五年		八四九、八六八	一、一二五、五一九	四六三、四六四	二、四三八、八五一	一六六	一、四

一四、林業。

蘭領印度ノ林業ハ林務行政上「チーク」林

ト雑木林トニ区分スル殊ニ爪哇ニ於ケル「チ・ーク」林所在地ハ主トシテ「レムバン」、「スマラン」、「マデウン」「ケゲリ」諸省ニ在リ總面積（一九三〇年）ハ九五九〇〇「ヘクタール」ニシテ此等「チーク」林及雑木林ハ水源涵養及土水防止上保留林トナレリ、最近ニ於ケル保留林面積及將来ノ植林見込面積ハ約一六五四、九〇〇「ヘクタール」ニ達ス尚外領ニ於テハ最近林業ガ盛トナリ其ノ調査ノ結果河川ニ沿フ森林ハ一般ニ奥行ガ短ク奥地ハ概シテ蕃人ノ為ニ荒サレテ居ルコト判明セリ然レドモ自然林ノ面積ハ約一億二千「ヘクタール」アリ外領總面積ノ約六八%ト計算サル外領ニ於ケル林業家ガ経営上

非常ナ苦境ニ陥レルハ運搬ノ困難ナルコト、労力ノ不足ナルコト林相ノ多種多様ナルコト各種樹木ニ對スル智識経験ノ乏シキコト等ニ原因スルモノトス。

今森林面積、及生産高ニ就キテ見ルニ次表ノ如シ。

爪哇及「マブラ」森林面積及生産高逓年比較表

出所ハ前表ニ同ジ

年次	チーク林面積		雑木林面積		
	面積 ヘクタール	爪哇及マブラ面積ニ對スル%	保留林 面積 ヘクタール	保留林 爪哇及マブラ面積ニ對スル%	非保留林 面積 ヘクタール
一九二六年	七、六五四、〇〇〇	五、八二	一六、四九〇、〇〇〇	一二、五五	七、六八〇、〇〇〇
一九二七年	七、七八八、〇〇〇	五、八三	一六、三七三、〇〇〇	一二、四六	六、〇三五、〇〇〇
一九二八年	七、六七九、〇〇〇	五、八四	一六、五四九、〇〇〇	一二、五九	五、七五七、〇〇〇
一九二九年	七、八八二、〇〇〇	五、九九	一六、一一九、〇〇〇	一二、二六	五、七二七、〇〇〇
一九三〇年	七、九五九、〇〇〇	六、〇六	一六、六一〇、〇〇〇	一二、六五	五、八三〇、〇〇〇

年次	伐採数量				木炭産額
	材木				
	チーク林材	雑木材	間伐材	薪材	
一九二六年	二三七、〇〇〇 立方米	一三、二〇〇 立方米	六〇、五〇〇 立方米	一、二六九、〇〇〇 立方米	五、九八三、〇〇〇 瓩

一九二七年	二九六、〇〇〇 立方米	一八、六〇〇 立方米	七五、五〇〇 立方米	一、五〇四、〇〇〇 立方米	一一、三五六、〇〇〇 屯
一九二八年	三一九、〇〇〇	三五、六〇〇	一〇四、二〇〇	一、六六六、〇〇〇	一三、〇四〇、〇〇〇
一九二九年	四〇五、〇〇〇	二八、三〇〇	一二九、〇〇〇	二、五九〇、〇〇〇	一四、〇四八、〇〇〇
一九三〇年	三〇一、〇〇〇	三〇、九〇〇	八〇、五〇〇	一、二六一、〇〇〇	八、八六六、〇〇〇

外領森林面積及生産高逐年比較表

出所ハ前表ト同ジ

年次	森林面積		生産高		
	平方粁	全面積ニ對スル%	木材	薪材	木材
一九二八年	一、一九七、二九〇	六七	一、三〇六、三一一		
一九二九年	一、三一三、四六〇	六八	一、三八五、三六六		
一九三〇年	一、三一三、二〇〇	六八	九七一、四九三		

鑛業

蘭領印度ニ於ケル鑛業ハ農業ニ亜グモノニシテ主要鑛産物ハ石油、錫、石炭、金銀、満俺、沃度、金剛石、鉄等ナリ。

右主要鑛物ノ産地ヲ示セバ次ノ如シ

出所ハ南洋年鑑

地域別	鑛物名
爪哇	石油、沃度、満俺、硫黄、金、銀

スマトラ	石油石炭金、銀、錫鉄満俺、鉛、亜鉛、
バンカビリトン ウォルフラム	錫
ボルネオ	石油、石炭、鉄、金剛石、金、
セレベス	鉄、金
アスファルト モルケン	石油、

之等鑛物ハ主トシテ外領ニ埋蔵セラレテ居リ採堀上労働力ノ不足ト運搬ノ不便ナルコトニヨリ未ダ有利ニ採堀サレザル状態ナリ。

採鑛並ニ採鑛許可證所有資格者ニ就キテ見ルニ鑛業法第四條ハ之ニ関シ左ノ如ク規定セリ。

一、和蘭人　二、和蘭又ハ蘭領印度住民

三、和蘭又ハ蘭領印度ニ設立サレタル會社。

右蘭領印度住民トハ蘭領印度ニ於テ永

住権ヲ有スル者ヲ謂ヒ永住権ハ蘭領印度ニ引續キ十年間居住シタル外国人ニ共ヘラル但シ鑛業又ハ農業「コンセツシヨン」ヲ獲ル為ノ者ニハ特ニ短期間ニシテ永住権ガ共ヘラル、便宜アリ。

會社ニ就イテハ管理者又ハ取締役ガ一名若ハ二名ナル時ハ其ノ全部ガ又二名以上ナル場合ハ其ノ多数ガ和蘭人又ハ蘭領印度住民タルヲ要シ又會社ハ和蘭商法ニ依リ設立サレタル會社タルヲ要ス。

採鑛権ハ政府ノ許可証ニ依リテ取得サル。

對私人鑛業封鎖地帯及對特定鑛物保留地帯ニ就キテハ左ノ通リ定メラル。

一、公益上ノ理由ニ依テ封鎖サレタル地帯

(一) 一九一二年八月十日政府決定第二五号ニ依ルモノ

(二) 一九一五年九月十四日附政府決定第三四号ニ依ルモノ

(三) 一九二一年二月二日付政府決定第一a号ニ依ルモノ

(四) 一九二六年七月十六日附政府決定第一一号ニ依ルモノ

(五) 一九三〇年三月十二日附政府決定第一七号ニ依ルモノ

二、特定鑛物ニ對スル政府ノ保留地

(一) 一九二一年二月二日附政府決定第

一a号ニ依ルモノ

(二) 一九二二年十月二十三日附政府決定第二六号ニ依ルモノ

(三) 一九二七年十一月十七日附政府決定第三号ニ依ルモノ

(四) 一九二九年六月二十一日附政府決定第一号ニ依ルモノ

以上諸決定ニ依リ政府ハ鑛物保留地及公益ノ為不許可ヲ公告シタル土地ノ探鑛ハ許可サザルモノトス。

一六　水産業

漁業ハ各島峡沿岸到ル處ニ於テ行ハレテヰルガ一般農業、牧畜業等ニ比シ遙カニ振ハズ和蘭政府ガ農業、鑛業林業牧畜業ノ

奨勵ニ全力ヲ注ギ漁業ヲ閑却シタル結果ニ因ルモノトス、然ルニ爪哇海、セレベス海、馬拉加海峡ハ豊富ナル魚族在リ有望ナル漁場アルニモ拘ラズ其ノ漁法ハ極メテ小規模ノ原始的方法ニヨリ未ダ動力付漁船ノ發達ヲ見ズ其ノ結果自己ノ需要ヲ充スコト能ハズシテ輸入ヲ外国ニ仰グ状態ナリ

即チ一九三〇年ノ輸入額ハ二千百三十万盾ニシテ輸出ハ四百二十五万盾ナリ。

即チ蘭領印度ハ南洋ニ於ケル水産物輸入國ノ筆頭ナリ。

本地方ニ於ケル主要漁業地ハ爪哇ノ北部沿岸、スマトラ中海岸ノバガンシアピアビ、セレベスノメナドヲ中心トスル海面及

其ノ近海一帯ノ地ナリ。一九二五年沖縄漁夫バタビアニ渡来シ其ノ後新渡来者モアリテ現在漁舟三二隻、従業員四五〇名ニシテ一九三〇年ノ水揚高五十二万盾ニ達セシモ其ノ成績振ハズ一九三一年ニハ殆ント中止スルノ窮状ニ至レリ、其ノ他メナドヲ中心トシ近海漁業ニ従事セル邦人漁夫ハ約百二十名内外トシ現在漁獲物ヲ製造加工スルモノトシテハ日蘭漁業株式會社ノミトス、本地方ノ沿岸ハ機船底曳網ヲ以テスレバ相当有望ナル漁場アリ、トス此ノ臭邦人漁業ノ将来ヲ期待セラル。

蘭領印度輸入状態ヲ示セバ次ノ如シ。

仕出国別乾、塩魚、及魚類鑵詰輸入高表

年次＼仕出国	和蘭（盾）	新嘉坡（盾）	彼南（盾）	米国（盾）	日本（盾）	其他（盾）	合計（盾）
一九二六年	三〇三、〇〇〇	一七、五八二、〇〇〇	六六三、〇〇〇	二、一六一、〇〇〇	一九、〇〇〇	一、三一二、〇〇〇	二二、〇四〇、〇〇〇
一九二七年	四一八、〇〇〇	一六、三九六、〇〇〇	八〇四、〇〇〇	二、七八九、〇〇〇	六八、〇〇〇	九一二、〇〇〇	二一、三八八、〇〇〇
一九二八年	四一二、〇〇〇	一五、九八四、〇〇〇	六三四、〇〇〇	二、二四〇、〇〇〇	三七、〇〇〇	七四〇、〇〇〇	二〇、〇四七、〇〇〇
一九二九年	五〇二、〇〇〇	一五、三七九、〇〇〇	七七四、〇〇〇	三、四〇九、〇〇〇	一一八、〇〇〇	七五八、〇〇〇	二〇、九四〇、〇〇〇
一九三〇年	五一六、〇〇〇	一四、七四七、〇〇〇	五五七、〇〇〇	二、〇八六、〇〇〇	一一二、〇〇〇	七三一、〇〇〇	一八、七三九、〇〇〇

出所ハ貿易統計

一七　工業

蘭領印度ハ多種多様ノ農産物アリ文明国ニ對スル工業原料ノ供給国トシテ重要ナル位置ヲ占ム、本地方ニ於ケル製糖工業ハ未ダ幼稚ニシテ現在ニ於テハ製糖、護謨精製、製茶規尼涅製造、搾油、澱粉製造等ノ農産加工工業ノ他ニ石油、錫、金銀ヲ精製スル鑛業関係ノ工業以外ハ單ニ機械工業、セメント工業、製紙工業、紙巻煙草、香水、石鹸、ベニア箱、清凉飲料水、製氷、ビール釀造、製菓等諸

工業アルモ前者ハ其ノ規模大ナルモ後者ハ何レモ小規模ナリ又前者ハ輸出向ナルニ反シ後者ハ領内消費ニ充テラル今大小ノ工場数ヲ示セバ次ノ如シ。

各種工場数一覧表

出所　一九三一年統計年報

年次	爪哇及マヅラ	外領	計
一九二八年	二八八三	一三三七	四二二〇
一九二九年	二九九九	一六二七	四六二六
一九三〇年	三三〇六	一七九六	五一〇二

第二　内地人移民

一、移民ノ沿革

我国ト和蘭トノ通商ハ古ク千六百年時代ヨリ行ハレ爾来和蘭ハ爪哇及台湾ヲ中心トシテ盛ニ我国ト通商貿易ヲ行ヘリ、一方我国民ハ足利時代ノ内乱以来国内ノ秩序モ整ハズ且ツ戦乱ニヨリ志ヲ得ザリシ士ノ海外発展ノ氣風旺トナリ倭寇トナリテ南支南洋ニ進出スルモノ續出シ其ノ結果邦人ノ足跡ヲ遠ク蘭領東印度迄印シタリ。

降ツテ徳川時代ニ御朱印ヲ請ヒ国禁ヲ犯シテ海外ニ発展シ各地ニ日本人町ヲ建設セリ例ヘバ一六二三年モロッカ島ノア

ンボイナ事件ニ邦人ガ関係シテヰルコトヤヌ高木某ノボルネオ島ノランダヘ渡航セル記録ノアルコト等ヨリ観ルニ邦人ノ発展ハ遠ク十七世紀頃ニ始マレリ然レドモ本格的ノ発展ハ明治初年ノ修交條約開開後ニ初マル、而モ南洋方面ヘノ同胞ノ移住ノ草分ハ娘子軍ニシテ彼等ハ明治十五ヨリ移住セリ而シテ其ノ主ナル原因ハ誘拐ナリキ其ノ後賣薬行商人ノ渡航増加シ一時南方ニ進出セシガ近時之ニ代リテ雑貨商ノ進出トナレリ、之等雑貨商ハ當初支那人商人ヨリ小量宛仕入レル小商賣人ナリシガ漸次努力ノ末小店舗ヲ経営スルニ至レリ、其ノ後世界戰争ノ結果各国ノ蘭印

ニ於ケル日用品ノ供給杜絶シタルヲ以テ對日貿易ヲ唯一ノ望ミトシ其ノ結果彼我ノ関係一層密接トナレリ戦争当時在留邦人ハ約四千人ナリキ右邦人中ニハ新嘉坡印度濠州方面ニ於ケル失敗者流入シ低級ノ労働者及雑業者ガ多シ。殊ニ娘子軍其ノ大半ヲ占ムル時代アリテ邦人ノ健全ナル発展ヲ阻害セシコトモ少ナカラザリキ。世界戦争ニヨリ我同胞ノ彼地ニ発展スルニ至リシ以来同地方ノ事情ハ明トナリ智識階級ノ渡航スル者漸ク増加シ不良分子モ姿ヲ消シ蘭國官憲トノ意見ノ交換、日常ノ交際等ニ依リ我國ノ領土的野心ナキヲ知リ邦人ニ對シ好感ヲ持ツニ至レリ。戦後ニ

於テモ邦人ノ事業ハ漸次擴張サレ本邦會社ハ独リ瓜哇ノミナラズスマトラ、セレベス、ボルネオ等ニ於テモ其ノ事業ノ擴張ヲ見ル殊ニ戰後ニ於ケル邦人ノ事業ハ農業方面ニ主力ヲ注グト共ニ商業経営者ノ飛躍ヲ見ルニ至レリ。

二、蘭領印度当局ノ日本人移民ニ對スル方針

従来ハ外国人入国数ニ對シ別ニ制限ナカリシモ一九三四年ヨリ其ノ入国数ヲ入国ニ関スル勅令及其ノ施行細則タル入国令ニ規定セリ即チ左ノ如シ

当領ニ於テハ一九三四年ヨリ外国人ノ入国ヲ制限スル意味ニ於テ毎年入国ヲ許

スベキ外国人数及各「グループ」別ノ割当数ヲ定メ一九三五年度ノ總入国許可移民数ハ一万二千人、各「グループ」各々八百人ト決定セリ此ノ数ハ六箇月以内ニ出国スル者ヲ含マズ且ツ各「グループ」ハ總数ヲ超過セザル範囲内ニ於テ本制度実施前十箇年ノ總入国者数ノ一割マデ増加サレルコトヲ得、例バ本年邦人入国制限数ハ八百人ナルモ過去十箇年ノ總入国者数ノ一割ヲ九百人トセバ其ノ合計千七百人マデ許可サル。

政府ハ必要ト認ムル場合ハ本規定ヲ免除スルコトヲ得

（對象ハ支那人トス）

其ノ他ノ細則ハ従来ノモノト同様ナリ

即チ次ノ如シ。

蘭印地方ニ於ケル民族的待遇ヲ四トナス。

(1) 欧州人 (2) 支那人 (3) 土人 (4) 支那人以外ノ亜細亜人即チ之ナリ就中在留邦人ニ對シテハ欧州人ト同等ノ待遇ヲナシ原住民ノ邦人ニ對スル感情ハ極メテ友好的ナリ、次ニ蘭印政府ノ邦人移民ニ對スル態度ハ蘭印地方ノ開拓ニ当リ蘭印政府ノミニテハ資金乏シキ関係上外資ヲ歓迎ス之ハ独リ吾国ノミナラズ他ノ諸外国ニ對シテモ同様ナリ、労働移民ニ對シテハ爪哇ノ如ク人口過剰ナ地方ハ其ノ入国

ヲ歓迎セズ然レドモ本地方ニ於テハ人種的差別待遇ナキモ入国者ニ對シ嚴重ナル選擇ヲ行フ。

例ヘバ病者、白痴者、犯罪者及滞在中生活ノ保証シ難シト認メラル、者ハ入国ヲ許サズ爪哇ニ於テハ有資力者、商人其ノ他有能者ノ外ハ單独ニテ移住セントセバ見セ金等ノ條件ニテ上陸不許可トナル虞アリ。

更ニ無資力者ノ入国ヲ防グ為百五十盾ノ入国手数料ヲ徴收サレル最モ爪哇以外ノ外領地方ハ比較的如上條件ハ寛大ナリ。

入国許可ヲ與ヘラレタルモノハ二箇年ノ滞在ヲ許容サル之ガ更ニ延期ヲ認メラレ十箇年ノ期間滞在ヲ許サル其ノ期間ヲ

終了シタルニ對シテハ定住許可証ノ下付ヲ受ケ得ラレ蘭印住民トシテノ特権ヲ享有ス。

右ノ入国制限規定ハ蘭領東印度一九一六年法律第四七號ニ依リ規定サル。即ナ其ノ関係規定ヲ抜萃セバ次ノ如シ

入国令抜萃（一九一六年二月四日官報
蘭領印度法令第四七号）

第一條　（二）上陸セントスル者ハ本令施行ノ為總督ノ指定セル上陸取締官ヨリ上陸許可証ヲ受クベシ

（三）總督ノ定ムル特別ノ條件ニ適合スルニ非ザレバ左記ノ者ニ對シ上陸許可

証ヲ下附スルコトヲ得ズ

瘋癲、白痴又ハ傳染病患者ニシテ社會生活上危険ノ虞アル者又ハ身体上ノ缺陥ニ依リ救済ヲ必要トスル虞アルモノ

第三條　(一)　上陸許可証ハ船内ニ於テ之ヲ発給シ其ノ手数料トシテ蘭貨百五十盾ヲ徴收ス但シ入国ヲ拒絶セラレタル者ニ對シテハ手数料ヲ返還ス入国許可證ハ同時ニ本人ノ妻及未成年ノ子ニ對シテモ効力ヲ有ス、

(三)　到着後總督ノ定ムル一定ノ期間内ニ蘭領印度ヲ退去スル者ハ第一項ニ規定スル手数料ノ返還ヲ要求スルコトヲ得

第四條　(二)　第一條第三項ニ掲グル者ノ外尚左ノ一ニ該当スル者ニ對シテハ入国許可証ノ下附ヲ拒絶ス

賣淫ヲ業トシ又ハ之ヲ幇助スル者

犯罪人引渡條約ヲ締結セル外国ニ於テ該條約ノ引渡條項ニ該当スベキ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者

蘭領印度滞在ヲ拒絶セラレタル者並ニ自己及其ノ家族ノ生活ヲ保證シ得ザルモノト認ムル者

公共ノ安寧及秩序ヲ紊乱スルノ虞アリト認ムル者

本国政府ノ発給シ且、蘭領印度入国ニ對スル査証ヲ為シタル旅券又ハ在外蘭

国外交官又ハ領事官ノ認證セル身分証明書ヲ有セザル者

但シ總督ガ旅券又ハ査証ノ必要ナシト指定シタル外国人ハ此ノ限ニ在ラズ

(三) 土人ノ経済的利益ニ害アリト認メラルヽ者ノ入国ハ總督ノ規定スル特別ノ條件ノ下ニ之ヲ許可シ又ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

(四) 本條第一項ニ規定スル入国許可證ノ引換ノ場合本人ノ妻及未成年ノ子ニ對シテモ亦各別ニ許可証ヲ發給スルモノトス

第六條 (一) 入国許可証ノ正當所有者ハ交通及居住規則ニ違ヒ二年間蘭領印度

ニ在留スルコトヲ得但シ右ハ第十二條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

（二）前項所定ノ期間終了後本人ヨリ出願アリタルトキハ其ノ居住地所轄ノ地方長官ハ各一年ヲ超エザル期間ヲ以テ二回及第三回目ニ於テハ六年以内ノ期間ヲ以テ其ノ延長ヲ為スコトヲ得

第七條（一）移民委員會ノ決定ニ對シテハ八日以内ニ所轄地方長官ニ對シ異議ノ申立ヲ為スコトヲ得

（二）異議ノ申立ハ右委員會ヲ経テ之ヲ為スベク当該委員會ハ本人ガ留置場ニ抑留セラレザル場合ニ於テハ地方長官ノ決定ヲ得ル間仮入国許可証ヲ発給ス

ベン

第八條（一）異議ノ申立ニ理由アリト認メタルトキハ仮入国許可証ト引換ニ入国許可証ヲ交附シ又ハ単ニ之ヲ下附ス

（二）異議ノ申立ニ理由無キモノト認ムルトキ又ハ所定ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ為サザルトキハ地方長官ハ書面ヲ以テ本人ニ對シ蘭領印度ヨリ退去ヲ命ス。

第九條（一）第一條第一項ニ掲ゲタル者ニシテ有効ナル入国許可証若ハ仮入国許可証ヲ所有セズシテ蘭領印度内ニ滞在スル者ニ對シテハ其ノ居住地ノ地方長官ハ之ニ出頭ヲ命ジ第四條ノ規定ニ該当セザル者ニ限リ入国許可証ヲ発給

ス

(二)前項ノ規定ニ依リ入国許可証ヲ発給スル場合ハ有効ナル上陸許可証ヲ有スル者ニ對シテハ蘭貨百盾其ノ他ノ者ニ對シテハ同百五十盾ヲ給付セシム、但シ右ハ家長ニ對スル入国許可証ニ對シテノミ之ヲ徴收ス

(四)地方長官ノ決定ニ對シ異議アルトキハ八日以内ニ本人居住地ノ地方長官ニ異議ノ申立ヲ為スコトヲ得

此ノ場合該地方長官ハ之ヲ決定シ其ノ理由ヲ申渡ス

第十條 (一)第四條第五條第八條及第九條ニ依リ入国ヲ許可セラレタル者ト雖